

株式会社チノー  
(東証プライム:6850)

HYDROGEN  
FUEL CELL

2026年3月期 第2四半期  
決算説明会資料



チノーは燃料電池評価試験装置を製造

» 1. 事業概要	P 2
» 2. 決算概要	P13
» 3. ソリューション事例	P29
» 4. 今後の方向性	P39
» 5. トピックス	P49
» Appendix	P56

# » 1. 事業概要

---

**CHINO**



# 温度を軸に顧客課題解決に貢献

高精度な制御を  
実現する  
プロセス制御技術

計測

制御

監視

極低温から超高温まで計測可能な  
温度センシング技術

計測・制御・監視を  
一括管理する  
ソフトウェア開発技術

独自の技術の創出

あらゆる産業のお客様の課題を解決する  
**ループソリューション<sup>®</sup>**  
を提供

1936年の設立以来  
「計測・制御・監視」  
の領域において、  
あらゆる産業分野の発展に  
貢献してまいりました

# 当社グループの事業セグメント

事業セグメント		主な製品
計測制御機器	プラントや工場などの様々な製造現場の基盤を支える、温度などの記録、制御に必要な記録計・調節計・電力調整器・口ガード等を提供	<ul style="list-style-type: none"><li>記録計</li><li>調節計</li><li>電力調整器</li><li>口ガード</li></ul>
計装システム	計測、制御、監視技術を活かし、お客様の目的に合わせた計測制御機器などをコーディネートする計装システムを提供 各種評価試験装置・パッケージソフトを提供	<ul style="list-style-type: none"><li>評価試験</li><li>性能耐久試験</li><li>集録監視パッケージシステム</li></ul>
センサ	接触型温度センサ、赤外線技術を応用した放射温度計・熱画像計測装置・湿度センサ・成分計を提供	<ul style="list-style-type: none"><li>温度</li><li>湿度</li><li>成分水分厚さ計測</li><li>温度校正</li></ul>
その他	修理・サービスを提供	

# <計測制御機器>

## 計測制御機器について >>

記録計

調節計

サイリスタレギュレータ  
(電力調整器)

口ガード

プラントや工場などの様々な製造現場の基盤を支える「記録」や「制御」に必要な「記録計」や「調節計」、「サイリスタレギュレータ」を提供しています。また、温度や二酸化炭素、酸素濃度の計測と監視を一台で行うデータロガーやガスセンサ、配線不要で広域エリアの温湿度データを監視できる無線口ガード等を提供しています。

### 主な製品



記録計



調節計



サイリスタレギュレータ  
(電力調整器)



監視機能付き無線口ガード

## 当社製品のシェア (2024年国内販売ベース<単体>)

製品区分	国内市場シェア			
	販売金額	販売数量	順位	順位
記録計	 15.3%	3位	20.8%	3位
調節計	 5.7%	5位	3.9%	6位
電力調整器	 19.9%	2位	7.9%	5位

※上記データは、温度以外（湿度、圧力、流量）を含むシェア

出所：2025年版 注目メカトロニクスパーツ市場実態総調査（富士経済）

# <計装システム>

## 計装システムについて ➤

評価試験

性能・耐久試験

集録・監視パッケージシステム

計測・制御・監視の技術を活かし、燃料電池評価試験装置、水電解評価装置、コンプレッサ性能試験装置をはじめ、お客様の目的に合わせた計測・制御・監視機器をアプリケーションソフトを含めてコーディネートする計装システムを提供しています。

### 主な製品



燃料電池評価試験装置



水電解評価装置



コンプレッサ  
性能試験装置



集録・監視システム  
パッケージソフト

# <センサ>

## センサについて



温度

温度

成分・水分・厚さ計測

温度校正

熱電対、測温抵抗体などの接触形温度センサ、赤外線技術を応用した放射温度計、熱画像計測装置（サーモグラフィ）、および湿度センサや成分計を提供しています。

また、標準技術では校正用の標準センサとして使用される標準白金測温抵抗体、標準熱電対の提供と、JCSS（計量法校正事業者登録制度）の登録事業者として、温度および湿度の国家標準へのトレーサビリティ確保を支援しています。

### 主な製品



高温用シース熱電対



放射温度計



熱画像計測装置



赤外線多成分計  
(水分・フィルム厚さ・塗工厚さ)

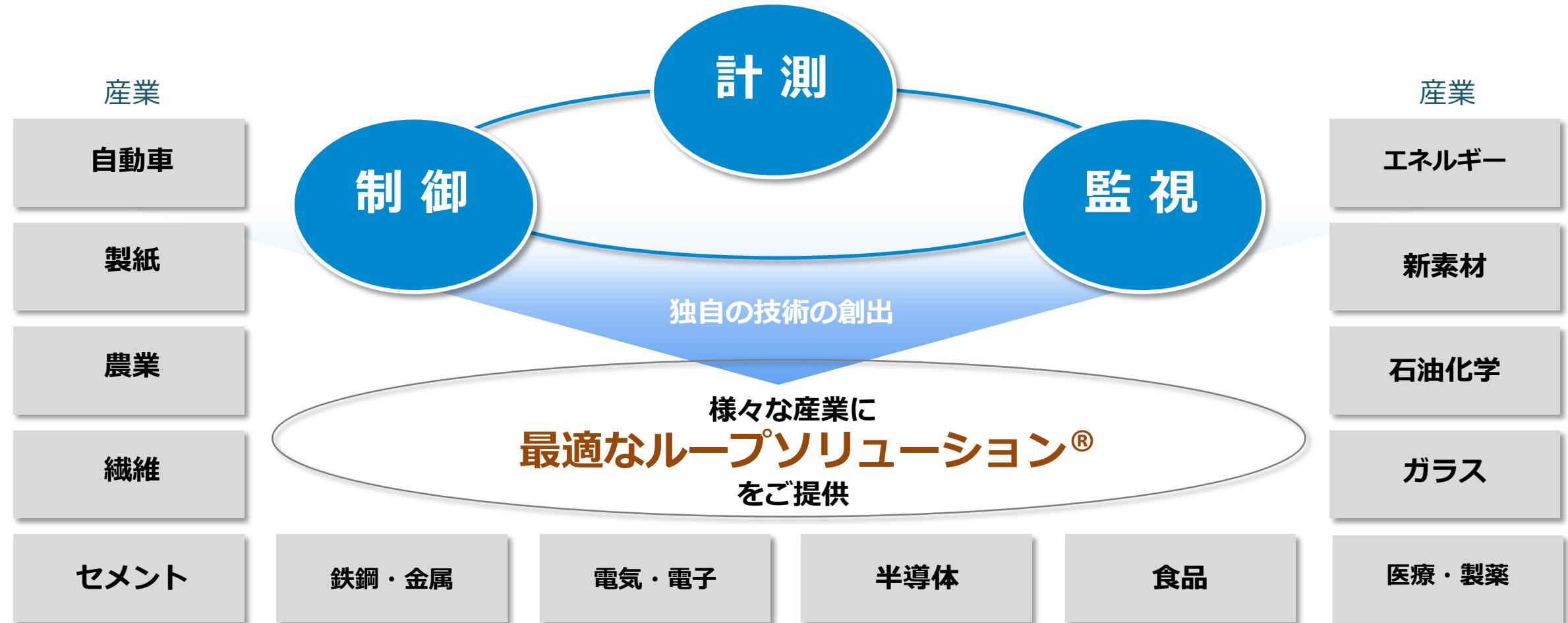


温度校正装置

# 事業の特長 ループソリューション<sup>(※)</sup>による顧客価値の創造

「温度のチノー」として、温度を軸として長年培ってきた

- ①計測の技術
- ②制御の技術
- ③監視の技術

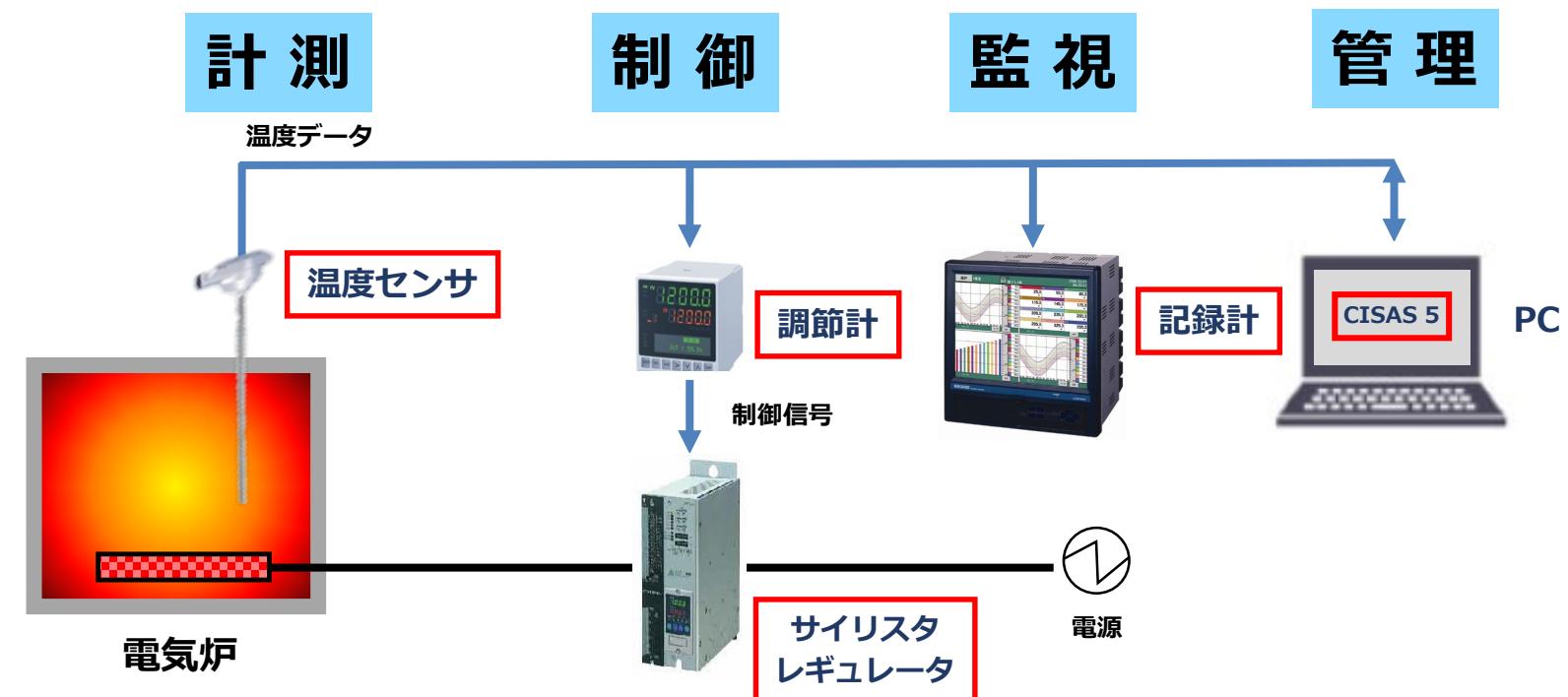


※ 「ループソリューション」は当社の登録商標です。

# ループソリューションとは

お客様の様々なニーズに合わせ、計測・制御・監視の製品を組み合わせた**温度の“ループソリューション®”**をワンストップで提供しています。  
これは**他社にはない当社の特長**になります。

電気炉の温度制御



: 当社製品

# 校正事業、標準温度センサ（世界29か国で採用）

お客様のセンサや自社生産したセンサの温度の誤差を把握する（校正）事業を行っており、当社は国に認められたJCSS（計量法事業者登録制度）の登録事業者として、国際的なトレーサビリティの証明となる証明書を発行することができます。また当社は世界の国家計量機関（世界29か国）に標準温度センサを提供しています。



**JCSS**  
JCSS 0024

株式会社チノー標準技術部は、認定基準として ISO/IEC17025 を用い、認定スキームを ISO/IEC17011 に従って運営されている JCSS（計量法校正事業者登録制度）の下で認定されています。JCSS の認定機関である IAJapan は、アジア太平洋認定協力機構（APAC）及び国際試験所認定協力機構（ILAC）の相互承認に署名しています。0024は当社標準技術部の登録番号です。

## 標準温度センサ

（「温度誤差把握の基準」となる温度センサ）



標準白金測温抵抗体／熱電対



標準用放射温度計

## 世界29か国で 標準温度センサ として採用

世界の国家計量機関に標準温度センサを  
提供し、**温度標準分野**で大きな評価

## 温度ループ ソリューション

お客様のニーズに最適な  
温度ループソリューション  
(計測・制御・監視の一元管理)  
をワンストップ提供

## 極低温から超高温 までの温度測定

– 269°Cから3,500°C

までの温度を計測

※放射温度計のトップメーカー

## 脱炭素社会 実現に貢献

「燃料電池（水素を使う）」  
「水電解（水素を作る）」の  
研究開発用の試験装置を提供し、  
社会のサステナビリティに貢献

## » 2. 決算概要

---

**CHINO**



# 決算ハイライト

2026年3月期 第2四半期 連結業績

受注高



14,378百万円

前年同期比 11.2 %増



売上高



14,187百万円

前年同期比 7.8 %増



- 受注高は、脱炭素関連の需要が継続するとともに、センサセグメントの需要が増加
- 売上高は、当社顧客の設備投資が堅調に推移し増収

営業利益



917百万円

前年同期比 14.0%減



経常利益



960百万円

前年同期比 16.0%減



中間純利益 (親会社株主に帰属)



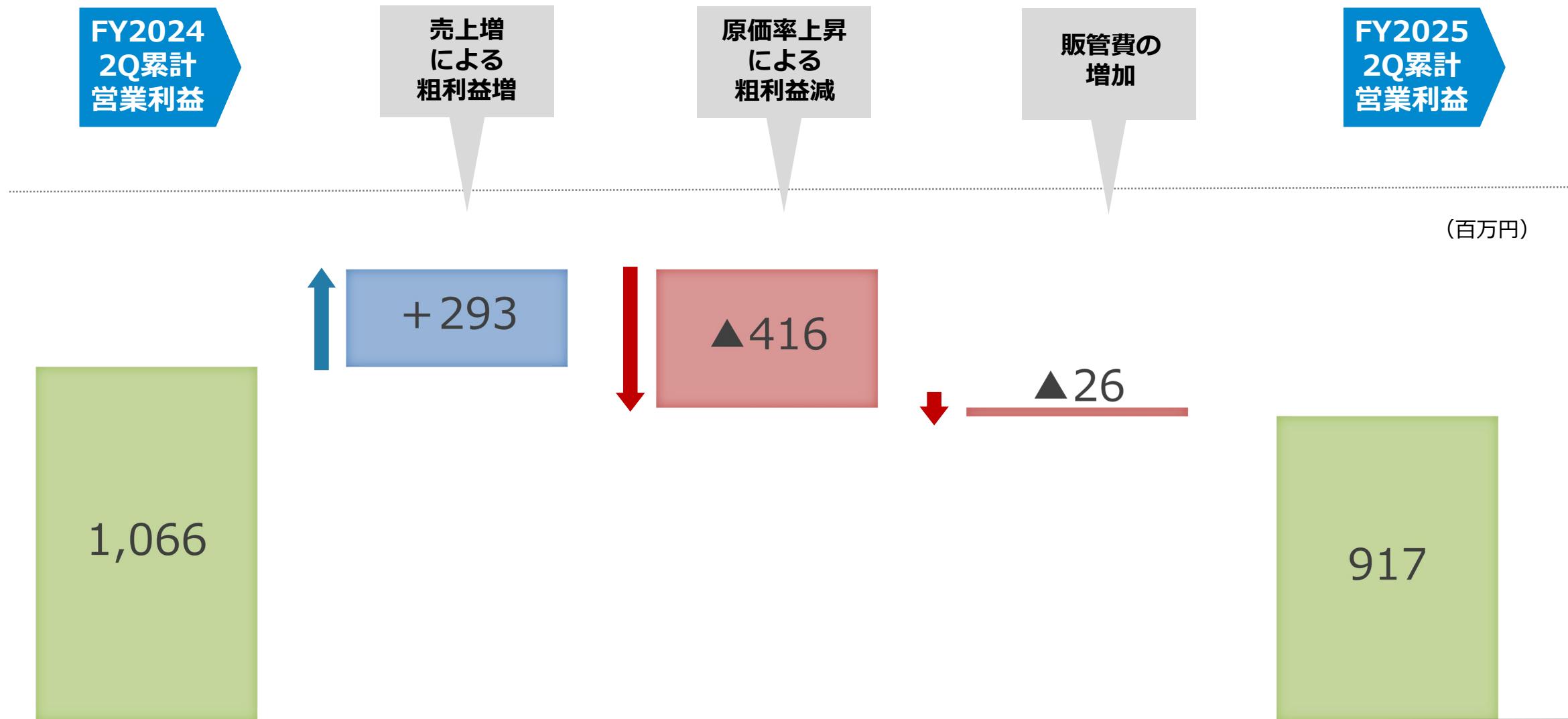
468百万円

前年同期比 26.1%減



- 利益は、センサセグメントが大幅に増益となった一方で、個別案件の利益率下振れによる計装システムセグメントの減益により全体として減益

# 営業利益増減分析



# セグメント別業績

## ◇セグメント別業績

(百万円)

	受注高				売上高				セグメント利益（営業利益）			
	FY2024 2Q累計	FY2025 2Q累計	増減額	増減率 (%)	FY2024 2Q累計	FY2025 2Q累計	増減額	増減率 (%)	FY2024 2Q累計	FY2025 2Q累計	増減額	増減率 (%)
計測制御機器	4,390	4,566	176	4.0	4,884	4,620	▲ 264	▲ 5.4	714	699	▲ 15	▲ 2.1
計装システム	4,391	4,566	174	4.0	3,980	4,532	551	13.9	574	213	▲ 361	▲ 62.9
センサ	3,712	4,739	1,027	27.7	3,803	4,502	698	18.4	658	937	279	42.5
その他	431	505	73	17.1	497	531	34	6.9	100	136	36	36.2
全社費用									▲ 980	▲ 1,069	▲ 88	—
合計	12,926	14,378	1,451	11.2	13,166	14,187	1,020	7.8	1,066	917	▲ 149	▲ 14.0

損益状況

## 売上高



4,620 百万円

前年同期比

5.4%減



## セグメント利益



699 百万円

前年同期比

2.1%減

製品別状況

- 半導体・電子部品の製造設備や熱処理加工向けを中心に全体の需要は堅調だったものの、中国における一時的な需要減少の影響により、前年同期比で減収
- 利益は、売上高減少により減益

## &lt;売上高&gt;

(百万円)

10,000

5,000

0

9,169

4,524

9,744

4,884

■ 2Q累計    ■ 通期
9,800  
(予想)

4,620

FY2023

FY2024

FY2025

## &lt;セグメント利益&gt;

(百万円)

2,000

1,500

500

0

1,173

598

1,511

714

1,550  
(予想)

699

■ 2Q累計    ■ 通期

FY2023

FY2024

FY2025

## 損益状況

## 売上高



4,532 百万円

前年同期比

13.9%増



## セグメント利益



213 百万円

前年同期比

62.9%減



## 製品別状況

- 空調用コンプレッサ評価試験装置は、自然冷媒対応機器の需要が増加
- 利益は、個別案件の利益率下振れ等により減益

## &lt;売上高&gt;

(百万円)

10,000  
5,000  
0

9,699

3,486

9,958

3,980

■ 2Q累計 ■ 通期

10,300  
(予想)

4,532

FY2023 FY2024 FY2025

## &lt;セグメント利益&gt;

(百万円)  
2,000  
1,500  
1,000  
500  
0

1,268

532

1,551

574

1,350  
(予想)

213

FY2023

FY2024

FY2025

■ 2Q累計 ■ 通期

損益状況

## 売上高



4,502百万円

前年同期比

18.4%増

製品別状況

## セグメント利益



937百万円

前年同期比

42.5%増



- 半導体・電子部品の製造装置や熱処理加工向けを中心に需要が好調
- グループ会社・明陽電機(株)（船舶向け温度センサを製造販売）の增收が寄与
- 利益は、增收効果等により増益

## &lt;売上高&gt;

(百万円)

10,000

5,000

0

FY2023

FY2024

FY2025

■ 2Q累計 ■ 通期

7,549

3,537

8,597

3,803

8,850  
(予想)

4,502

## &lt;セグメント利益&gt;

(百万円)

2,000

1,500

1,000

0

FY2023

FY2024

FY2025

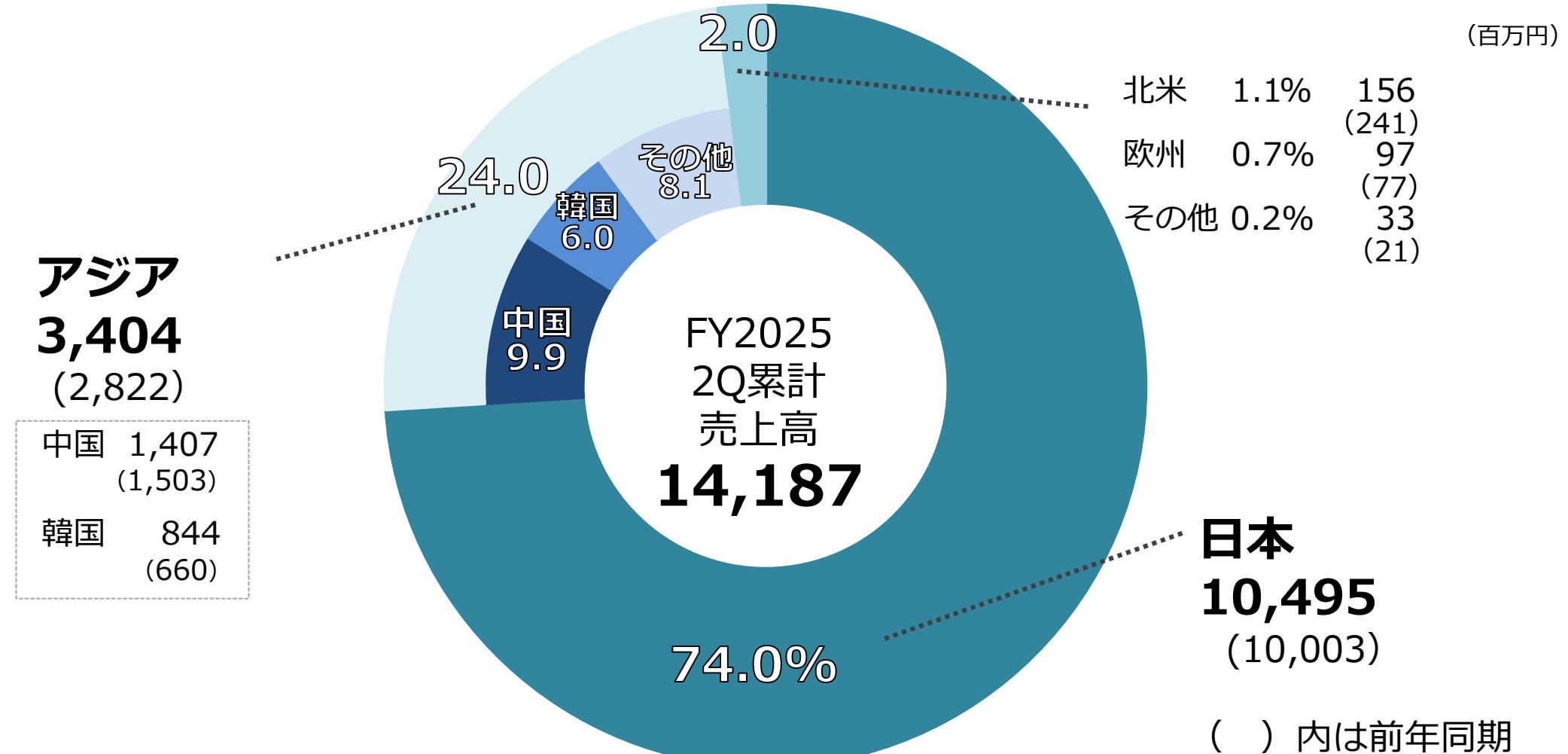
■ 2Q累計 ■ 通期

1,995  
(予想)

937

# 地域別売上高

- 国内売上高：前年同期比492百万円の増収
- 海外売上高：同528百万円の増収(アジア+581百万円<タイ+463、インド+184、韓国+183> )



# 連結貸借対照表

- 資産 売上債権の減少等により、前期末比▲1,515百万円
- 負債 賞与引当金・未払法人税等の減少等により流動負債は▲1,271百万円、長期借入金の減少等により固定負債は▲314百万円となり、負債合計では前期末比▲1,585百万円
- 純資産 前期末比+70百万円

(百万円)

科目	2025年3月末	2025年9月末	増減額
流動資産	27,268	25,072	▲ 2,196
現預金	8,127	7,535	▲ 591
売上債権	8,834	7,387	▲ 1,446
棚卸資産	10,069	9,845	▲ 223
その他	238	303	64
固定資産	10,496	11,178	681
有形固定資産	6,169	6,584	414
無形固定資産	290	337	46
投資その他の資産	4,036	4,256	220
資産合計	37,765	36,250	▲ 1,515

科目	2025年3月末	2025年9月末	増減額
流動負債	9,390	8,119	▲ 1,271
仕入債務	4,026	4,227	200
短期借入金	1,638	1,613	▲ 25
その他	3,725	2,278	▲ 1,447
固定負債	3,341	3,026	▲ 314
長期借入金	969	733	▲ 236
その他	2,371	2,293	▲ 77
純資産	25,033	25,104	70
株主資本	21,120	21,150	29
その他の包括利益累計額	857	991	133
非支配株主持分	3,055	2,962	▲ 92
負債純資産合計	37,765	36,250	▲ 1,515

※自己資本比率は、2025年3月末 58.2%から2025年9月末 61.1%へと2.9ポイント上昇

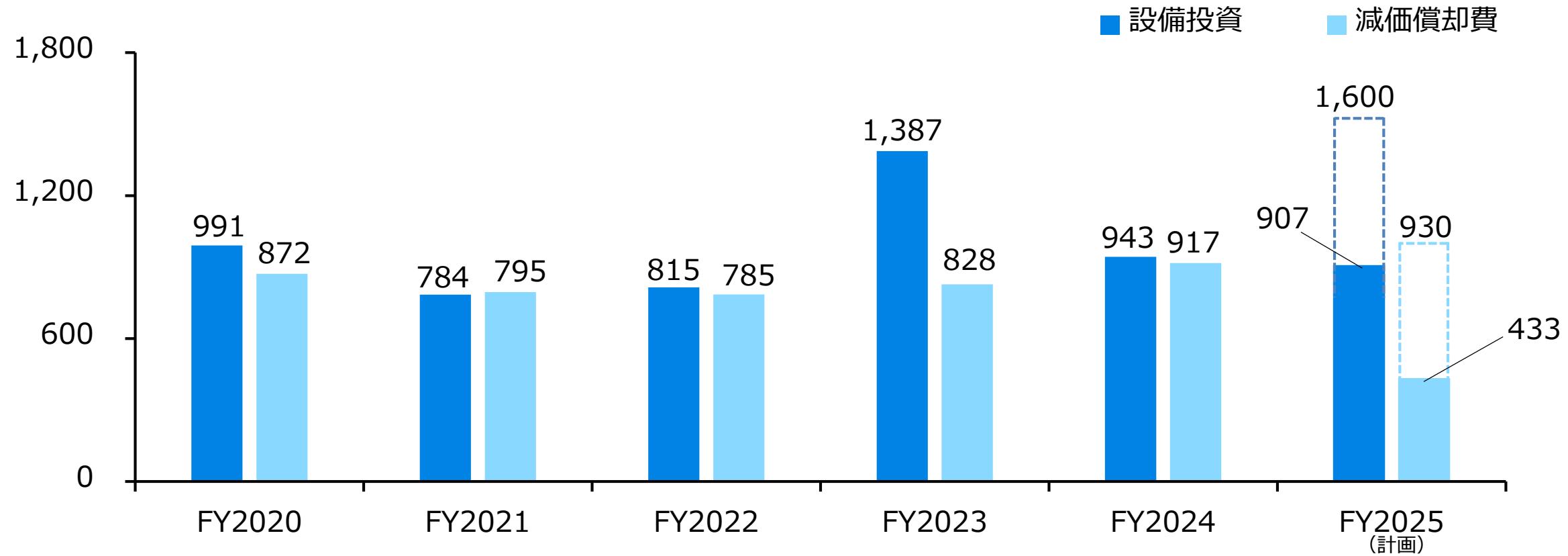
# 設備投資／減価償却費

- 2025年度の設備投資（計画）は1600 百万円（上期実績は907百万円）

< 2025年度の主な設備投資（計画）>

- ・工場用土地購入（明陽電機） 680百万円
- ・DX関連システム投資 400百万円

(百万円)



# 連結キャッシュ・フロー

- 営業CF：営業利益917百万円、減価償却費433百万円等により+1,621百万円
- 投資CF：固定資産取得▲1,201百万円等により▲830百万円  
以上の結果、フリーCFは+791百万円
- 財務CF：配当金▲467百万円、借入金▲261百万円等により▲880百万円

(百万円)

区分	FY2024 2Q累計	FY2025 2Q累計	増減額
現金・現金同等物の期首残高	6,742	7,575	833
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,045	1,621	575
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲379	▲830	▲450
フリー・キャッシュ・フロー (I + II)	665	791	125
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲673	▲880	▲206
IV. 現金・現金同等物の換算差額	103	▲71	▲174
現金・現金同等物増減	95	▲161	▲256
現金・現金同等物の期末残高	6,837	7,414	576

# FY2025の業績予想 (2025年5月13日発表)

エネルギー価格の高止まりや物価の高騰、不安定な為替相場などに加え、米国における関税政策の影響等、不確実性は増しているものの、主要顧客（自動車・電子部品分野等）および脱炭素社会に向けた水素関連分野での需要拡大を前提として、FY2025の業績予想は前期比で增收増益と予想。

項目	FY2025 業績予想 (2025年5月13日発表)	FY2024 実績	増減	(百万円) 増減比 (%)
売上高	30,000	29,329	671	2.3
営業利益	2,900	2,879	21	0.7
経常利益	3,050	3,034	16	0.5
当期純利益 (親会社株主に帰属)	2,000	1,991	9	0.4

# FY2025の業績予想 (セグメント別)

(百万円)

	売上高				セグメント利益（営業利益）			
	FY2025 予想	FY2024 実績	増減額	増減率 (%)	FY2025 予想	FY2024 実績	増減額	増減率 (%)
計測制御機器	9,800	9,744	56	0.6	1,550	1,511	39	2.6
計装システム	10,300	9,958	342	3.4	1,350	1,551	▲ 201	▲ 13.0
センサ	8,850	8,597	253	2.9	1,995	1,706	289	16.9
その他	1,050	1,029	21	2.0	255	251	4	1.6
全社費用					▲ 2,250	▲ 2,142	▲ 108	—
合計	30,000	29,329	671	2.3	2,900	2,879	21	0.7

# 株主還元（配当方針）

## 配当方針

[ 中期経営計画の後半3年間  
(2024年度～2026年度) ]

2026年度の配当性向(連結)を  
**40%**まで引き上げていくこと  
を目指し持続的な利益成長を  
通じ増配を実現

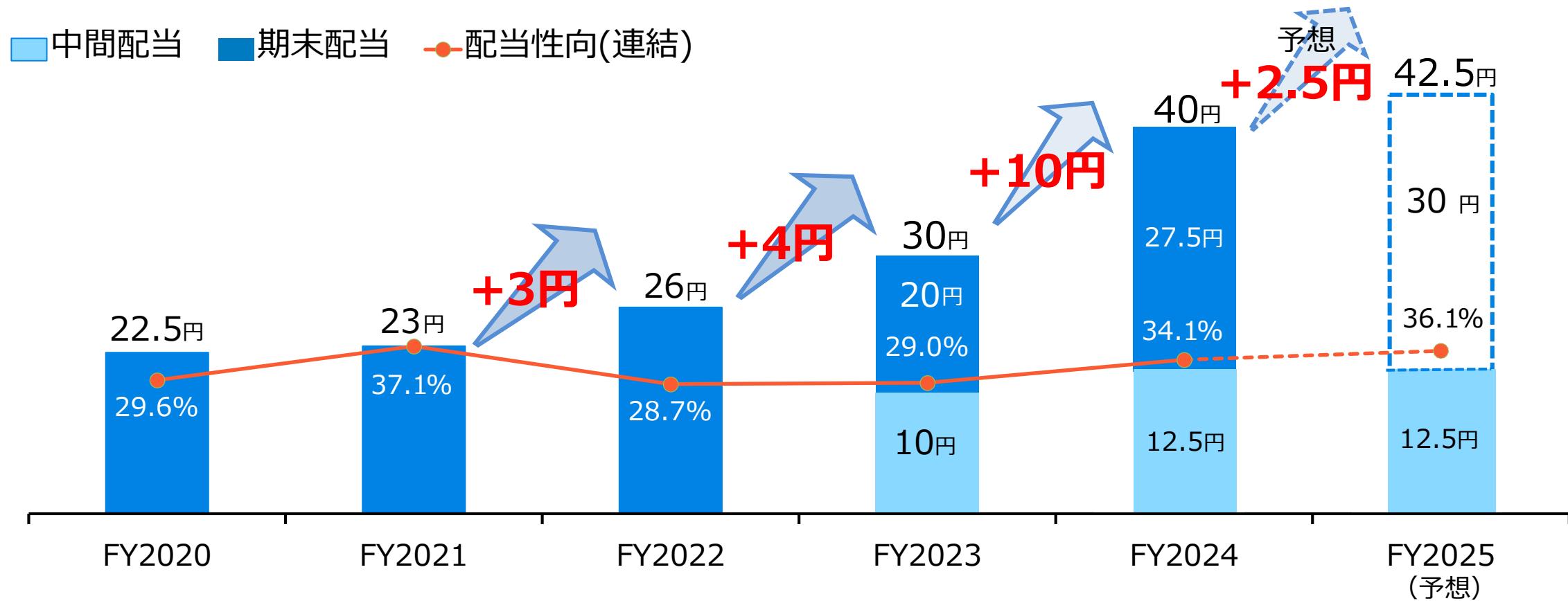
## 中期経営計画NX26

	Phase1：成長の基礎固め			Phase2：成長の加速		
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度 (予想)	2026年度 (計画)
配当性向(%)	37.1	28.7	29.0	34.1	36.1	<b>40</b>

# 株主還元（※株式分割後ベース）

※2025年10月1日付で1株を2株に分割。下記グラフ（FY2020～FY2025）は、株式分割後ベース。

- FY2025中間配当 : 12.5円
  - FY2025期末配当（予想） : 30円
- 42.5円（予想）  
(前期比 2.5円増配)



※自己株式取得予定（上限） ①期間：2025年11月～2026年11月 ②株式数：860,000株 ③金額：13億円

# 株価推移（※株式分割後ベース）

※2025年10月1日付で1株を2株に分割

■ 株価：1,384円

（2025年10月31日終値）

■ 単元株式数：100株

■ 売買最低代金：138,400円

時価総額

（2025年10月31日終値）

256億円

P E R ※1

11.77倍

P B R ※2

1.06倍

※1 1株当たり当期純利益（2026年3月期通期業績予想）を用いて算出。

※2 1株当たり純資産（2026年3月期中間期）を用いて算出。

株価：資料作成時点（2025/10/31終値）



※上記グラフ(2015年～2025年)：株式分割後ベース

## » 3. ソリューション事例

---

**CHINO**



# 産業別ソリューション

## 自動車 航空機

- ・航空宇宙材料向け熱処理規格(AMS2750)に準拠したセンサ・機器・ソフトウェア
- ・自動車部品の国際的な熱処理規格(CQI-9)に準拠したセンサ・機器・ソフトウェア

## 半導体 電子部品

- ・Siおよびパワー半導体(SiC等)の放射温度計による単結晶成長温度計測
- ・人工ダイヤモンド製造時の温度計測
- ・車載電子部品評価規格(AEC)の高温環境試験に対応する耐熱形熱画像計測装置

## エネル ギー

- ・水電解評価装置
- ・燃料電池(FC)評価装置
- ・コンプレッサ性能試験装置
- ・バイオマス燃料温度監視装置

## 医療 医薬

- ・医薬品サプライチェーン温度監視
- ・医薬品倉庫温度管理・マッピング
- ・再生医療、試料保管庫の温湿度管理
- ・血液センター温度監視システム

## 鉄鋼 金属

- ・中低温度高精度化測定（低炭素化）
- ・新素材開発支援用特殊温度計測装置
- ・アルミ低圧鋳造設備温度監視
- ・高機能鋼板コイル全面温度計測

## 製紙

- ・情報紙塗工量測定
- ・紙基材上樹脂膜厚計測
- ・製紙水分プロファイル制御
- ・ドライヤー制御

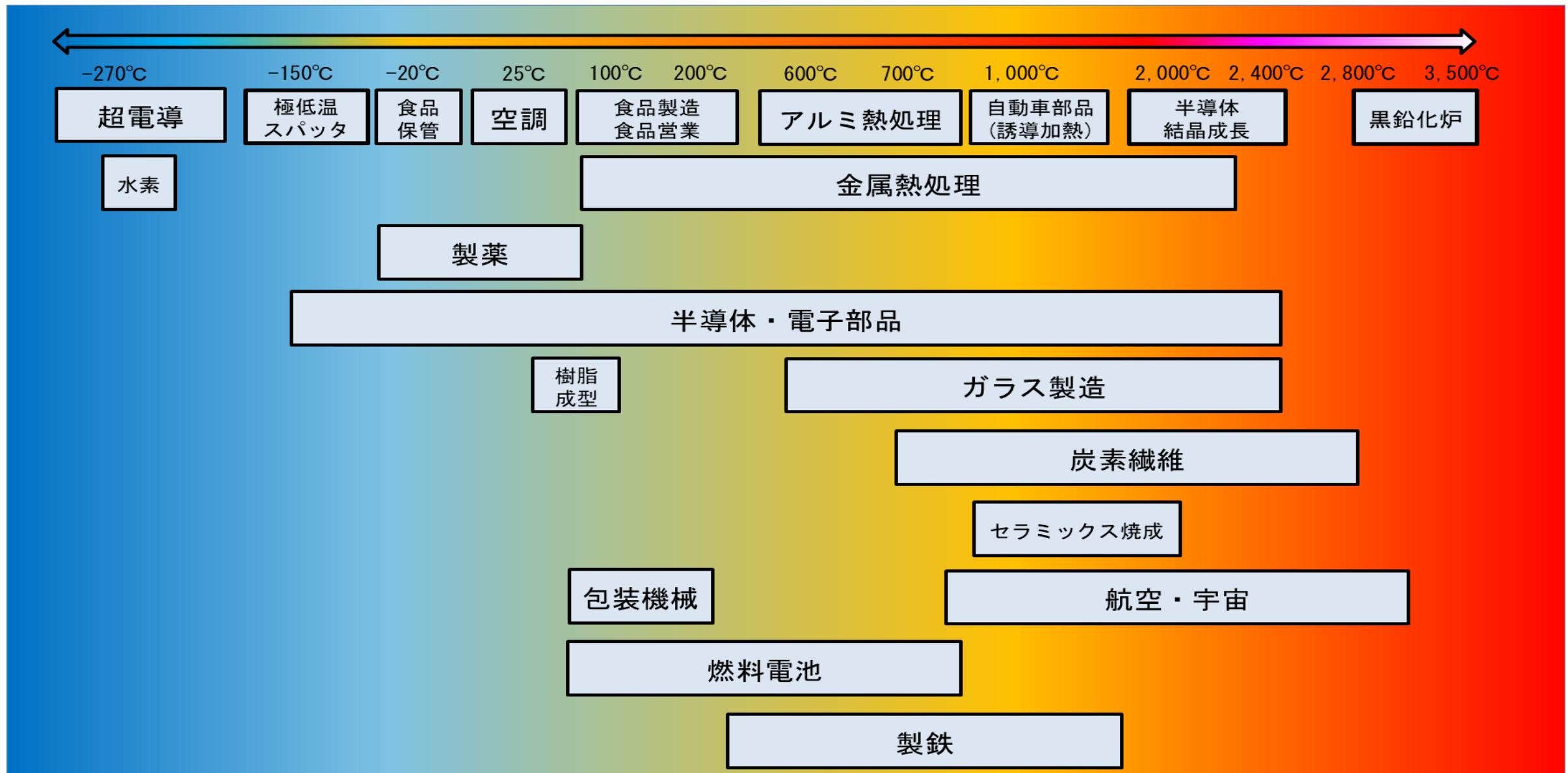
## 食品

- ・食品安全管理支援用監視システム
- ・HACCP支援BLE温度測定器
- ・原材料水分・油分等成分測定装置
- ・冷蔵冷凍庫内の温度・CO<sub>2</sub>監視

## 農業

- ・港湾穀物サイロの温度管理
- ・カントリーエレベータの温度管理
- ・栽培ハウス育成環境総合制御装置
- ・栽培監視クラウドシステム

# 温度帯別ソリューション



自動車製造における歩留まり改善・不良削減

## » 自動車の塗装ムラ防止策の提案

*Solution*



- 自動車の塗装ムラは、塗料の不均一性、ブース内の温度・湿度の環境要因などから発生し、塗装ムラが発生すると損害
- 温湿度計でブース内の温湿度管理が出来、成分計では、塗料の不均一性を防止するために溶剤濃度をあらかじめ調べることが可能
- そのほかに、塗装中、または、塗装後に放射温度計や熱画像を用いることで、塗装ムラの確認ができます。特に熱画像自身は200℃まで耐えることができますので、ブース内の温度がやや高めでも使用可

### ◆自動車の塗装ムラ防止

【ブース内の温湿度管理】



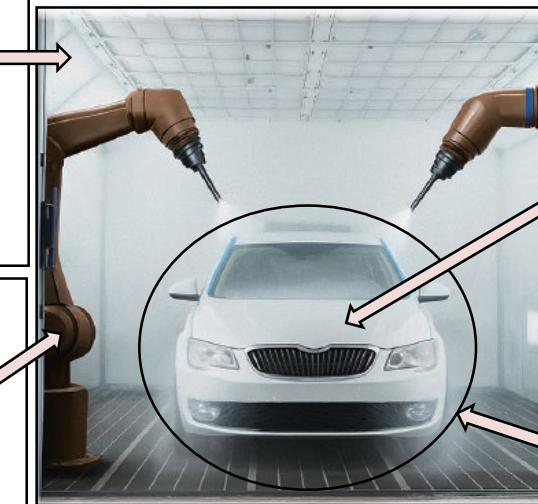
壁取付形温湿度計

【塗装材の溶剤濃度測定】



成分計

【自動車塗装イメージ】



【塗装後のボディ温度測定】



小形放射温度計

【塗装後のボディの温度分布】



200℃耐熱形熱画像

□ : 当社製品

次世代EVの全固体電池の性能評価に貢献

## » 超低露点恒温槽の実現

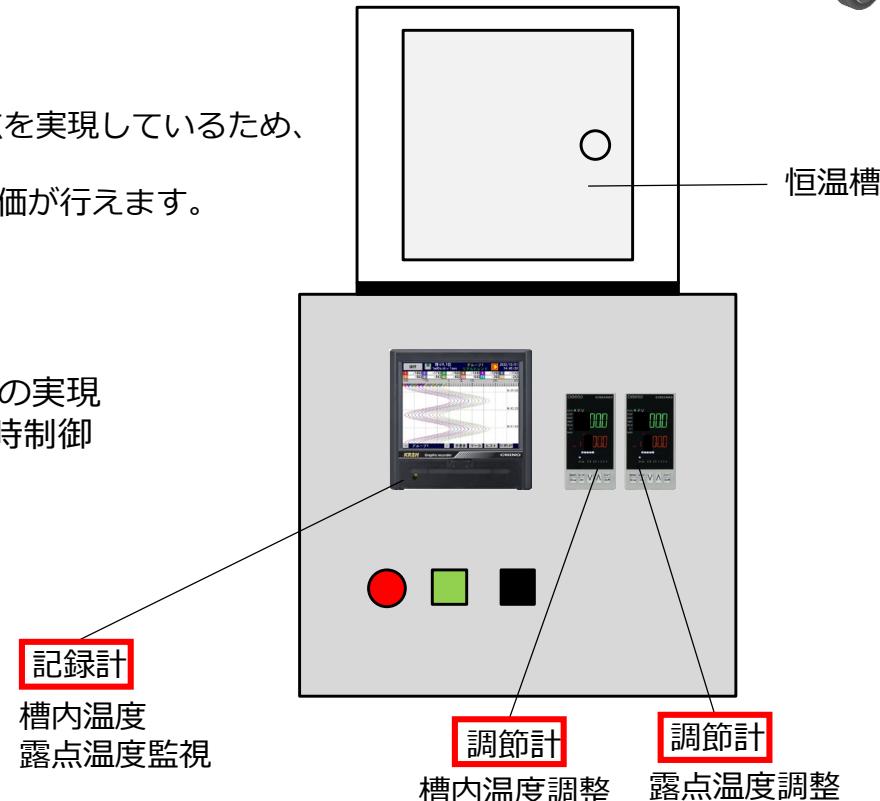
- 経済産業省は電池産業戦略(2022年8月)を策定し、次世代の電池として期待されている全固体電池を本格実用化する方向
- 全固体電池は、自然発火の防止や充電時間の短縮が可能で、次世代電気自動車の蓄電池として期待
- 全固体電池内のリチウムは微量の水分でも反応してしまい、自然発火の危険性があるため水分管理が必須となります。そのためには、露点温度を $-60^{\circ}\text{C}$ 付近にすることが必要

*Solution*



### ◆全固体電池の性能評価

恒温内は $-60^{\circ}\text{C}$ 付近の超低露点を実現しているため、水分が発生しません。  
安心して、全固体電池の性能評価が行えます。



# 半導体関連（人工ダイヤモンド生成時の温度監視）

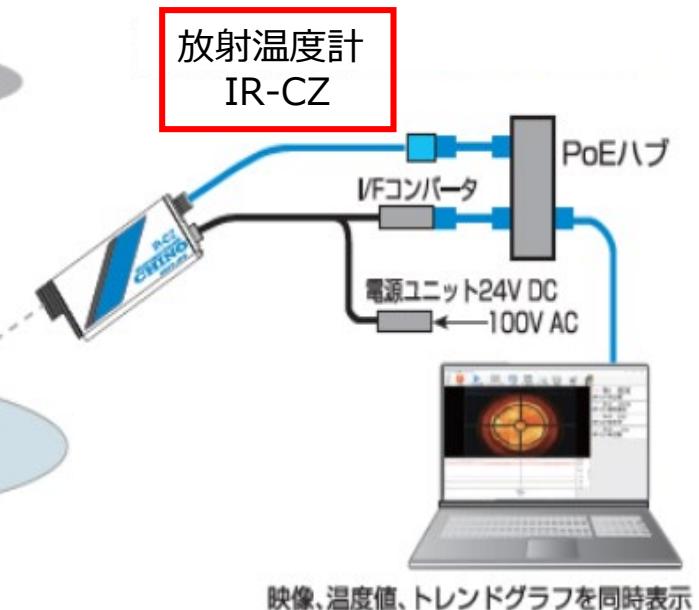
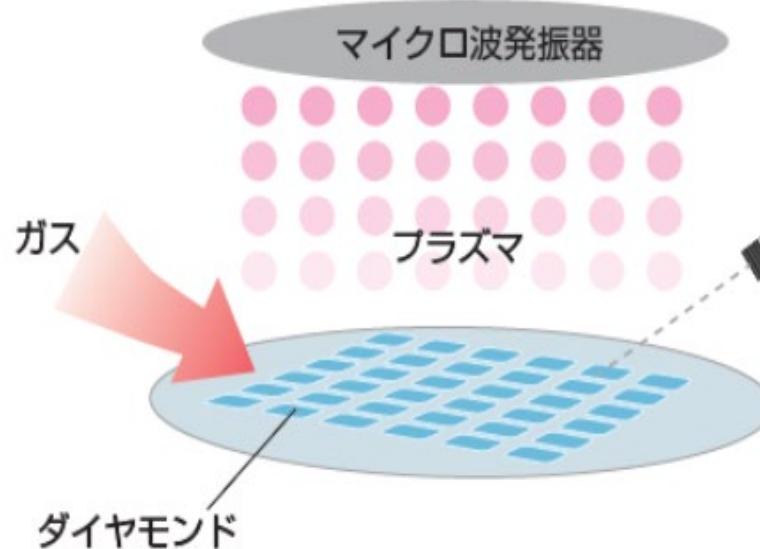
人工ダイヤモンドの成長過程を温度監視

## » 人工ダイヤモンドの生成ソリューション

*Solution*

- メタンと水素を混在させ、マイクロ波とプラズマによりダイヤモンド結晶が人工ダイヤモンドに成長
- 放射温度計を用いることで人工ダイヤモンドの成長過程における温度監視が可能
- ダイヤモンド半導体は、パワー半導体や量子センサとしての応用が期待されている  
(当資料P52 <「ダイヤモンド半導体」への貢献> )

### ◆人工ダイヤモンドの生成



□: 当社製品

# 鉄鋼関連（鉄鋼分野への貢献）

1,000°Cを超える極限環境の安全・安心に貢献

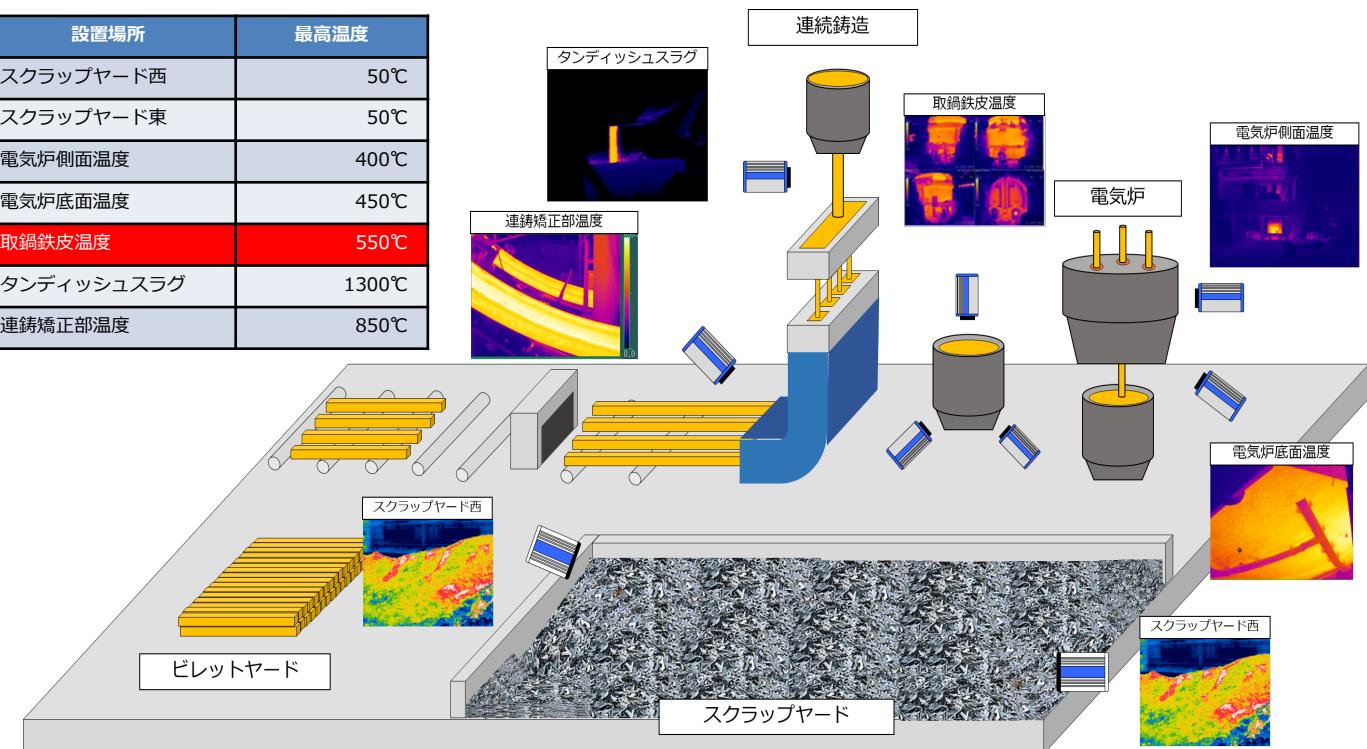
## » 製鋼工場安全監視システム

*Solution*

- 鉄鋼分野は当社創業期からお付き合いのある最重要分野
- 溶けた鉄が取鍋(トリベ)からタンディッシュへ注がれる。取鍋の底はリスクが高く、大事故を防ぐため鉄火の温度を計測し、劣化状況の監視が必要
- スクラップヤードに集められた金属は、電気炉へ投入  
スクラップは金属の山ですが、実際はさまざまなリスク（鉄の酸化による発熱・バッテリーの混入による自然発火）があり監視が必要

### ◆ 製鋼工場安全監視システム

設置場所	最高温度
スクラップヤード西	50°C
スクラップヤード東	50°C
電気炉側面温度	400°C
電気炉底面温度	450°C
取鍋鉄皮温度	550°C
タンディッシュスラグ	1300°C
連鉄矯正部温度	850°C



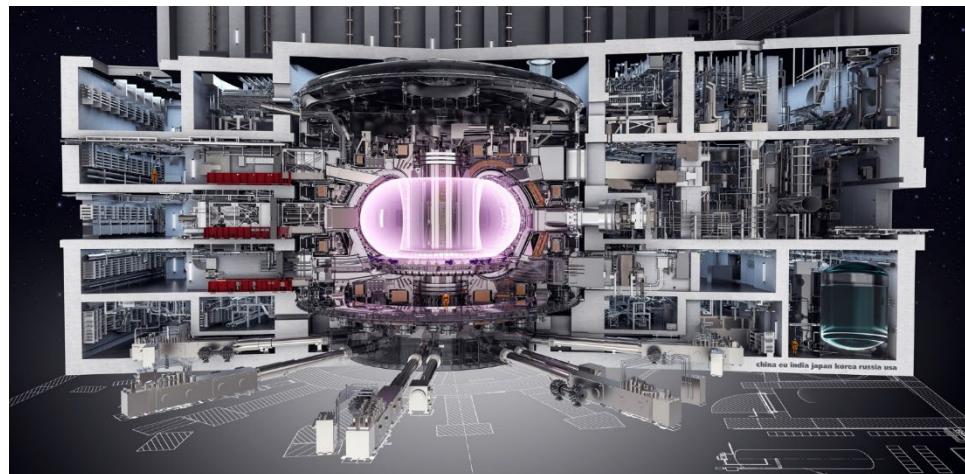
フュージョンエネルギーイノベーションへの貢献

## ➤ 核融合炉における温度計測

*Solution*

- 第7次エネルギー基本計画(2025年2月)においてフュージョンエネルギーについて言及しており、早期実現と産業化を目指すと明記
- 核融合発電において、炉壁へかかる熱負荷は高く、炉壁温度の監視が重要  
炉壁材料の研究も盛んに行われており、放射測温技術で貢献

### ◆核融合のイメージ



©ITER Organization



放射温度計  
IR-CZ

当社製品

「水分管理」が未来を変える

## » 赤外線で支えるクリーンエネルギー

*Solution*

- バイオエタノールは、サトウキビやトウモロコシなどの植物を原料にする燃料で、カーボンニュートラルなエネルギーとして注目
- 発酵や蒸留の過程で、原料や製品中の水分量を正確に把握することが求められ、水分が多すぎると燃焼効率や品質に影響を及ぼすため、当社の赤外線水分計が品質管理と製造効率の両立に貢献

### ◆バイオエタノールプラントのイメージ



赤外線水分・厚さ計  
IR-MA

□: 当社製品

# その他のソリューション事例

その他のソリューション事例はAppendixに記載しております。  
また、当社のホームページに掲載されています。



## SOLUTION ソリューション

- 半導体
- 電子部品
- 熱処理・鉄鋼
- 自動車
- 航空機
- 脱炭素・エネルギー**
- 化学
- 医薬
- 食品
- IoT
- その他

詳しく見る

DECARBONIZATION/ ENERGY  
脱炭素・エネルギー

脱炭素・エネルギー事例は、炭素排出削減または炭素を供給するための取り組みや技術を指します。再生可能エネルギー、エネルギー効率の向上、炭素捕捉と貯留、バイオエネルギーなど持続的でカーボンニュートラルな社会の実現に貢献する事例をご紹介します。

### プロセス・使用例

- 脱炭素
  - リチウムイオン電池 電極スラリー
  - 接着剤塗布量計 IRMT03
  - SOEC/SOFC評価用セラミックホルダ
  - 水電解評価試験
  - 改質器対応SOFC評価試験装置
- カーボンニュートラル社会実現に貢献！バイオマスヤード・バイオマス発電施設発熱・発火監視

## » 4. 今後の方向性

---

**CHINO**



# 事業環境認識

## 政治・経済

### ●世界の政治・経済の不透明化

- －ウクライナ/中東問題、トランプ関税、中国経済
- 新興国経済の発展による各種需要の拡大  
－食料、エネルギー、インフラ整備

### ●安全基準・規格の国際標準化

- －自動車、航空機・宇宙、医薬、食品
- 「XaaS」モノからサービスへの経済シフト

Volatility(変動性・不安定さ)

Uncertainty(不確実性・不確定さ)

## 環境(GX)

### ●地球温暖化/気候変動問題の深刻化

- －激甚化する自然災害
- －水資源不足問題/エコシステム破壊
- －世界的な省資源化の進行

### ●脱炭素社会実現に向けた動きの加速

- －日本の水素基本戦略「15年で15兆円投資」
- －環境配慮型へのビジネスシフト、エネマネ

## 技術(DX)

### ●デジタル技術の革新とDXの加速

- －AI/ビッグデータ/IoT/ロボティクス/RPA
- －自動車の変容(CASE)/スマート工場化
- －リモートワーク、生産性向上、製品機能

### ●多様なエネルギー源の高度利用

- －太陽光、風力、バイオマス、地熱等
- －水素利活用/二次電池市場の拡大

Complexity(複雑性)

Ambiguity(曖昧性・不明確さ)

## VUCA の加速

## 社会(サステナビリティSX)

### ●日本の少子化・高齢化/世界の人口増加

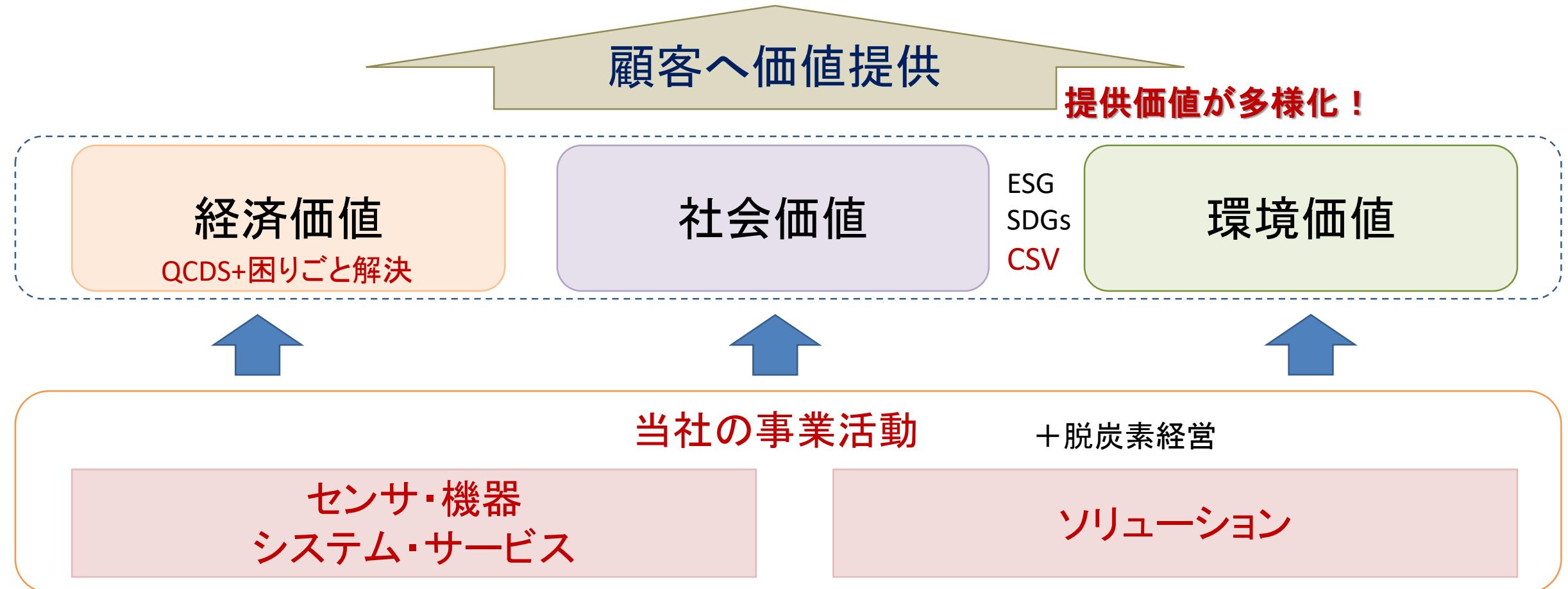
- －国内労働人口減少問題、採用と育成

### ●企業に対する要請の高度化

- －働き方改革/ダイバーシティ/サステナビリティ
- －コーポレートガバナンス/コンプライアンス
- －リスクマネジメント
- －サーキュラーエコノミー

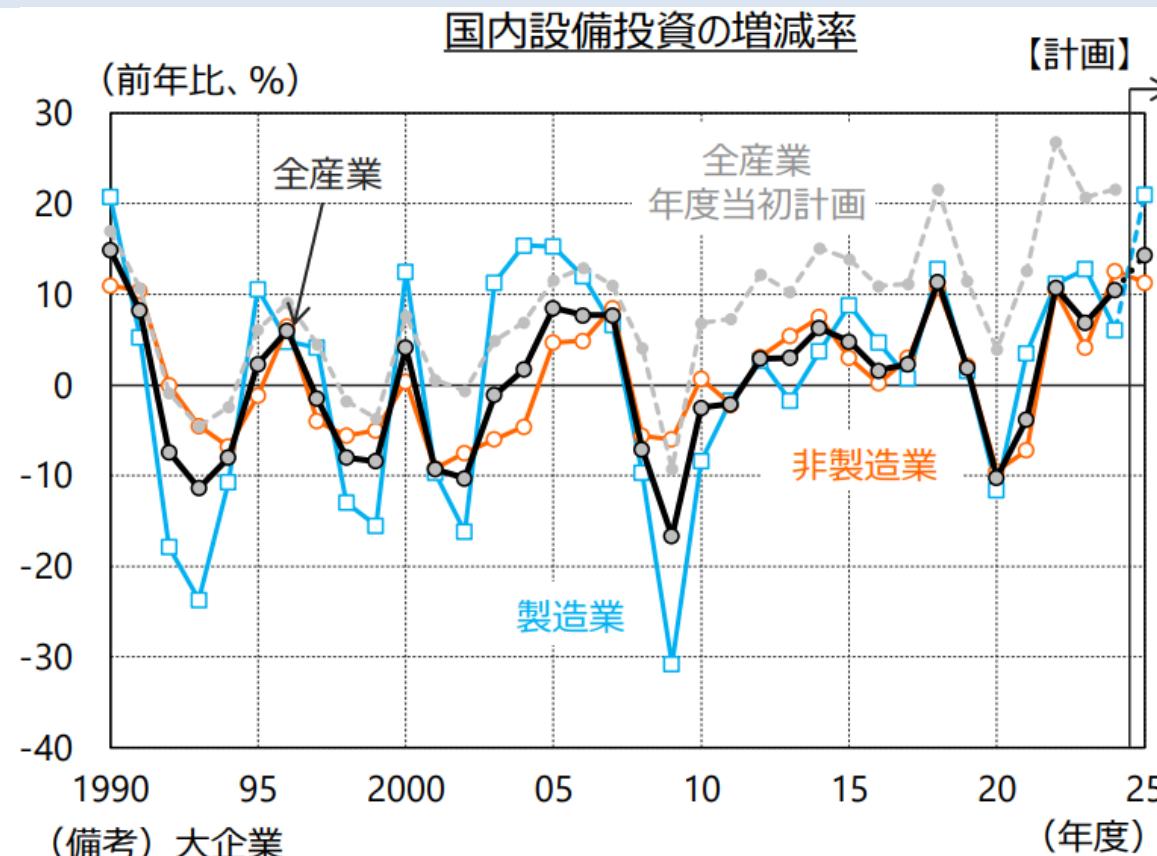
# 企業に要請される価値

サステナブルな社会の実現に貢献



# 2025年度の設備投資の状況

- 2025年度は、全産業（大企業）では前年比14.3%（製造業21.0%、非製造業11.3%）増の計画。  
製造業は自動車の電動化投資の継続や素材業種を中心とした脱炭素投資により高い伸びを維持。



出所：株式会社日本政策投資銀行  
2025年度設備投資計画調査

# 2025年度の設備投資の特徴

- 製造業：半導体・電動化関連を中心に素材業種や自動車などで増設・拡張投資
- 脱炭素：高度化・高付加価値化投資(SAF等次世代燃料増産)
- デジタル化・効率化：AI需要増に伴うデータセンター向け投資

	増設・拡張			製品高度化・高付加価値化			デジタル化・効率化		その他 (研究開発等)
食品	環境に配慮した工場の新設						高効率工場新設、配送システム刷新		
鉄鋼・非鉄	半導体・同材料の 能力増強	電子材料	電池向 け素材・ 部材	電磁鋼板	電炉	高炉・電炉効率化	半導体向け部材		
化学				電動化 関連 能力増強				医薬、電子材料 研究施設新設	
電気機械	電子部品						車載向け電子部品		
輸送用機械	造船関連	電池等電動化投資		新車種・ モデルチェンジ対応	SDV(※2)関連				
一般機械	高効率発電	防衛関連			自動化対応			インキュベーション 施設新設	
石油		次世代燃料(SAFなど)						次世代燃料向け 研究施設新設	
通信・情報							データセンター	通信 ネットワーク	
電力・ガス	再エネ等向け送配電網								
卸売・小売							AI発注	次世代店舗システム	
運輸	人流拡大 に向けた 都市機能 高度化の 継続	空港機能 物流施設	航空機 車両新造・新線建設 駅周辺・都心再開発				物流効率化 省力機器・自動化		
不動産									
サービス			娯楽施設 ホテル						

(備考) オレンジは相対的に投資規模が大きい内容、緑色文字は脱炭素関連投資

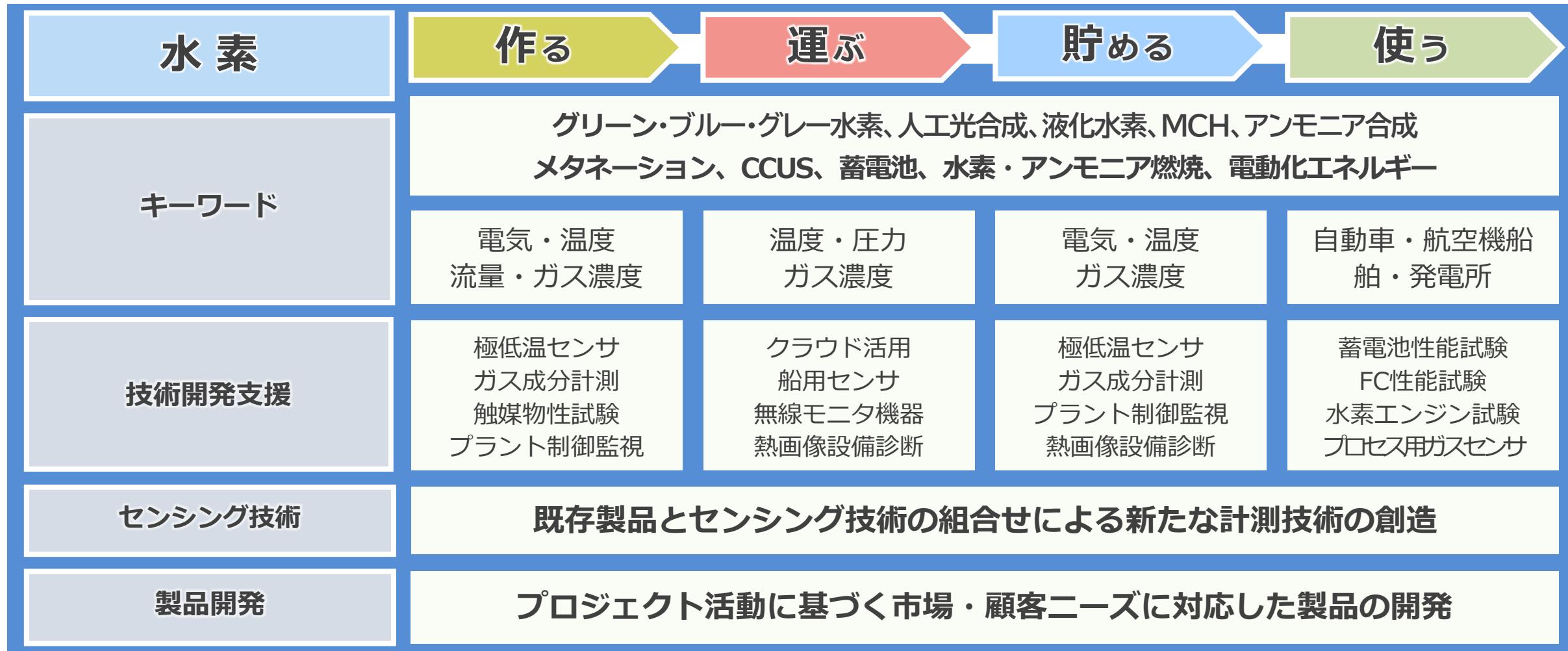
出所：株式会社日本政策投資銀行  
2025年度設備投資計画調査

# 水素社会実現に向けた政策

- 「水素基本戦略（アンモニア等を含む）」改定（2023年6月）
  - ①水素社会の実現を加速化：**水素利用量目標 <2040年> 1,200万トン**
  - ②水素生産基盤の確立：水電解装置導入目標 <2030年> **世界の約1割**
  - ③水素等製造サプライチェーンの構築：**15年間で15兆円の投資計画**
  - ④クリーン水素移行：「**クリーン水素**」世界基準策定を日本がリード
- 「水素社会推進法」施行（2024年10月）  
国が前面に立って、**水素等の供給・利用・貯蔵を促進**
- 経産省から「燃料費（水素）補助」の発表（2025年5月）  
水素モビリティの導入を促進するため、6都県で**商用車（トラック・バス等）**に**燃料費補助**を始めると発表

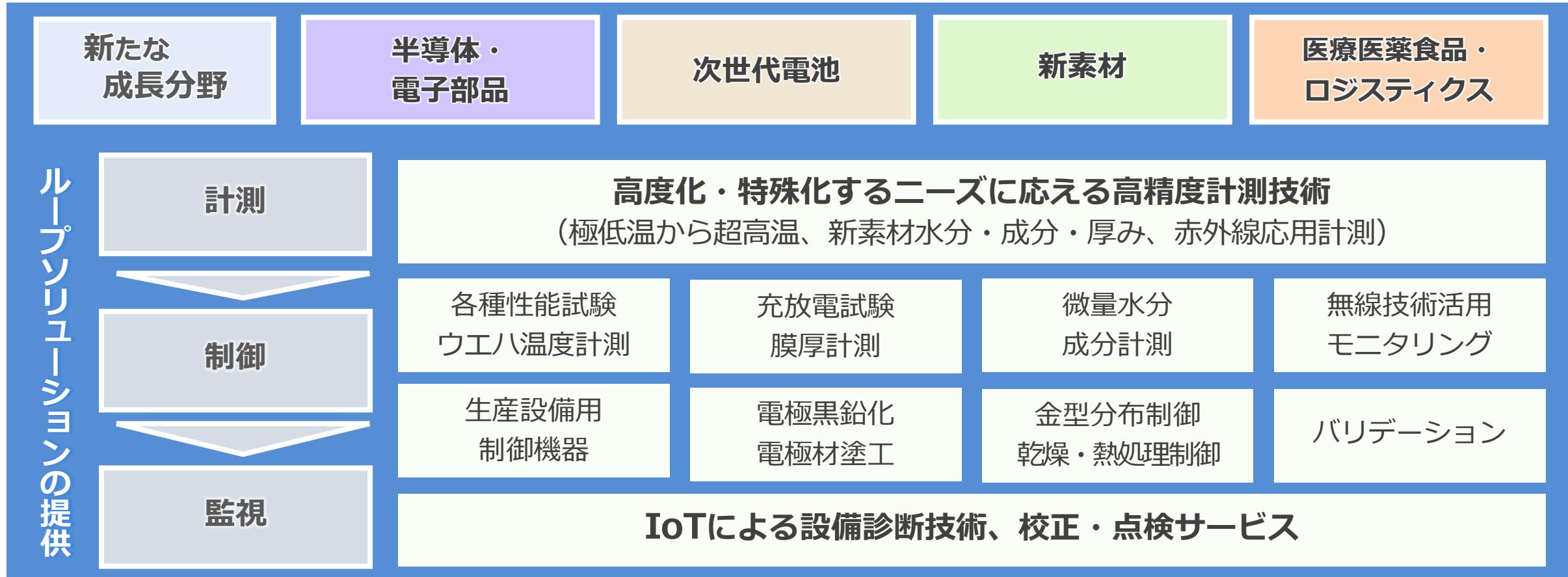
# 水素社会に向けた事業活動

水素社会（カーボンニュートラル2050）に向けて事業活動を行う。



# 成長市場の開拓

新たな成長分野・市場に向けて**特長あるソリューション**の開発と提供を進めることで競争優位性を発揮し、事業の拡大と社会課題の解決を実現する。



# 海外戦略（2026年度海外売上70億円に向けて）

顧客密着で現地ニーズに基づく製品を開発・生産して販売する“地産地消”を推進。

海外拠点数  
**6 拠点**  
(5か国)

CHINO Corporation India Private Limited



計測制御機器、  
センサ等の製造販売

千野測控設備（昆山）有限公司



計装システム、計測制御機器の  
製造販売

CHINO Corporation (Thailand) Limited



計測制御機器、  
センサ等の製造販売

韓国チノー株式会社



計測制御機器、センサ、  
計装システムの製造販売

CHINO Works America Inc.



計測制御機器、  
センサ等の販売

# 海外（地域別重点市場）

複数国市場の限定マーケットニーズに合致した製品（日本生産）による販売拡大  
熱処理市場向け機器（中国生産）の価格競争力強化・販売拡大

地域	市場	半導体・電子部品	熱処理	脱炭素・エネルギー	航空機・自動車	人工ダイヤ	取組み方針
☆ 中国	○ (※)	○		○	○ (※)		※放射温度計を中心に市場開拓
☆ 韓国	○ (※)	○					※放射温度計を中心に市場開拓
○ ASEAN		○	○				販売子会社（タイ）より装置メーカー向け販売拡大
○ インド		○	○	○	○ (※)		熱処理市場で機器販売拡大 ※放射温度計を中心に市場開拓
米国		○	○	○			熱処理市場に機器販売拡大
欧州		○	○				熱処理市場で代理店販売網強化

☆：重点地域 ○：成長地域 ○：重点市場 緑色箇所：複数国ニーズ対応製品の販売

## » 5. トピックス

---

**CHINO**



## 1. 株式分割（概要）

<b>目的</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>投資単位引き下げ、投資しやすい環境の整備</li><li>株式流動性の向上</li><li>投資家層の拡大</li></ul>
<b>分割方法</b>	普通株式1株につき2株に分割
<b>分割基準日</b>	2025年9月30日
<b>効力発生日</b>	2025年10月1日

# 自己株式の取得

株主還元を強化するとともに、資本効率の向上を図ることを目的として2025年11月12日の取締役会において、自己株式取得について決議。

## 1. 取得期間

2025年11月13日～2026年11月12日

## 2. 取得する株式（上限）

① 株数 860,000株

※発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合 5.05%

② 金額 13億円

## 3. その他

取得する自己株式は、消却予定

# 先端材料「ダイヤモンド半導体」への貢献

- 当社とアドバンス理工(グループ会社)で「第39回 ダイヤモンドシンポジウム」に出展しました。  
(期間：11/12～11/14 場所:東京理科大学野田キャンパス)
- ダイヤモンド半導体は、パワー半導体としての応用で注目されていましたが、最近では常温動作・高感度である量子センサとして、応用範囲が拡大しています。量子センサは高感度な磁気センサとして、医療分野や、EVの電池モニタなど様々な分野での活用が期待されています。



第39回ダイヤモンドシンポジウム



卓上型ランプ加熱装置  
MILA-5000C

□ : アドバンス理工(株)製品

# 国際温度学会「TEMPMEKO – ISHM 2025」に出展

- 当社は国際温度学会「TEMPMEKO-ISHM2025（期間：2025年10月20日～10月24日  
場所：フランス）※」に出展し、産業技術総合研究所（AIST）と共同開発した高放射率平面  
黒体炉(IR-R41)について学術ポスター発表をいたしました。
- ※ 「TEMPMEKO」：国際温度シンポジウムを補完することを目的に開催される温度計測・温度標準の国際研究集会  
世界中から研究者・技術者（温度計測、温度標準、湿度）が集い、最新の研究成果と動向を共有
- 本展示では、「温度のチノー」として**当社が誇る最先端の温度測定の正確さを支える校正ソリューション**を発表しました。



高放射率平面黒体炉  
IR-R41

当社製品

# 「チノーレポート2025」を発行

2025年10月31日に「チノーレポート2025」を発行しました。

本レポートは、ステークホルダーの皆様に、当社グループの事業活動・中長期的な経営の取組みについて深くご理解いただくことを目的として作成した年次統合報告書です。

本レポートをコミュニケーションツールの一つとして、ステークホルダーの皆様との対話を一層進め、今後とも持続的な企業価値向上に努めてまいります。



トップメッセージ



社外役員座談会

### ＜チノーレポート掲載＞



# 展示会への出展

顧客コミュニケーション強化の取組みとして積極的に展示会に出展しました。

## 2026 第18回開催 地球温暖化防止展

CO<sub>2</sub>削減と新エネ・省エネビジネスの推進 | The 18th Global Warming Prevention Exhibition 2026

日程：2025年5月28日～30日  
会場：東京ビッグサイト



CO<sub>2</sub>削減と新エネ・省エネ  
ビジネスの推進

## 第27回 インターフェックスジャパン 医薬品・化粧品 製造展

日程：2025年7月9日～11日  
会場：東京ビッグサイト



医薬・化粧品業界における  
日本最大の展示会

## 第2回 九州初! 半導体産業に特化した専門展 九州半導体産業展

日程：2025年10月8日～10月9日  
会場：マリンメッセ福岡



半導体の前工程の「温度計測・  
制御・監視」に関わる製品や  
ソリューション事例を展示

<オンライン展示会(当社HP)>



# » Appendix

---

**CHINO**

- ・会社概要 P57
- ・資本コスト経営の取組み等 P60
- ・その他ソリューション事例・新製品 P63



# 会社概要

会 社 名	株式会社チノー CHINO CORPORATION
本 社	東京都板橋区熊野町32-8
代 表 者	代表取締役 社長執行役員 豊田三喜男
事 業 内 容	計測制御機器の製造・販売、計装工事
会 社 設 立	1936年8月1日
株 式	東京証券取引所 プライム市場
従 業 員 数	連結：1,093名 単体：678名 (2025年3月末現在)
グ ル ー プ 会 社	12社 (国内 6社、海外 6社)

# 当社の生産拠点・販売拠点

## 生産拠点（3拠点）



### 藤岡事業所



記録計、調節計、サイリスタレギュレータなどの計測制御機器、  
計装システム、水分・厚さ計の開發生産

### 久喜事業所



放射温度計、温度・湿度など各種センサの開發生産

### 山形事業所



熱画像センサ、ハンディロガー、無線温湿度口ガ、酸素計、CO<sub>2</sub>モニタの開發生産

## 販売拠点 (3支店<16営業所>)



東日本支店 (8営業所・1出張所)  
大阪支店 (5営業所・1分室)  
名古屋支店 (3営業所)

# 国内グループ会社（6社）

## 株式会社チノーソフテックス



ソフトウェア等の  
制作販売

## アース株式会社



センサネットワーク製品開発、  
販売、各種IP開発

## 株式会社浅川レンズ製作所



光学機器の設計、製作  
ならびに販売

## アドバンス理工株式会社



熱分析・熱物性測定機器、  
赤外線加熱関連機器等の  
製造販売

## 三基計装株式会社



産業用最適空気環境装置、植  
物工場製作と電気計装工事

## 明陽電機株式会社



船舶エンジン用温度センサ、  
船舶搭載機器の製造販売

# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応① (取組み方針)

## 取組み方針

### 1. 基本戦略

#### 1 ) 中期経営計画の目標達成への取組み

- ①成長分野のさらなる開拓・拡大
- ②コア事業の高度化と価値創造
- ③海外事業の基盤強化と拡大
- ④経営基盤の強靭化

### 2. 財務・資本戦略

#### 1 ) 株主還元の充実

連結配当性向（2026年度）目標を40%とし、持続的な利益成長を通じた増配を実現する

#### 2 ) 政策保有株式の縮減（2021年度以降、順次実行）

### 3. I R 活動の充実

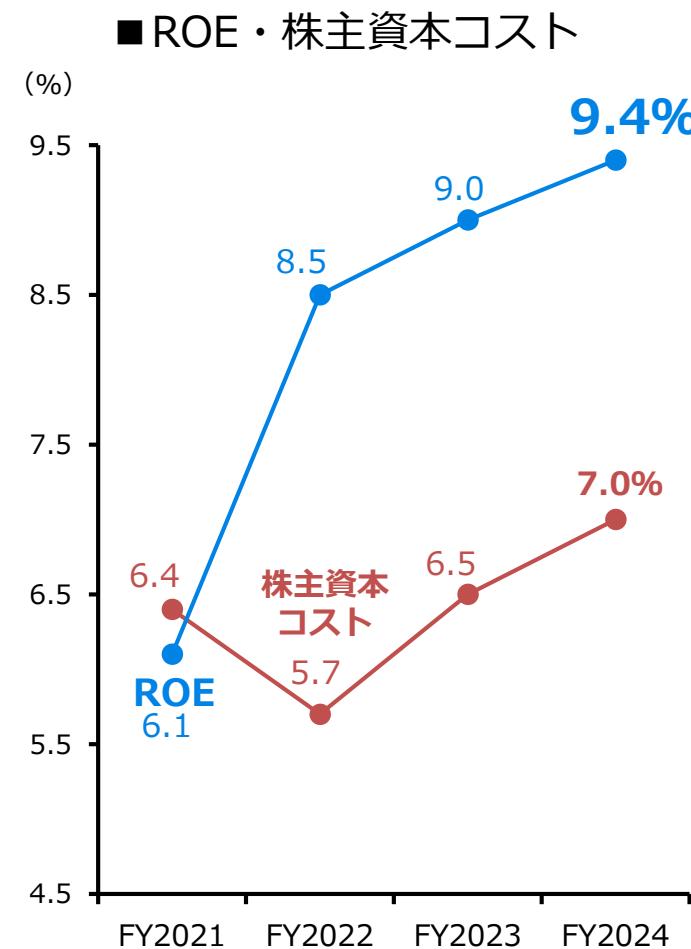
#### 1 ) 個別 I R ミーティングの機会拡充

#### 2 ) IR情報/非財務情報（サステナビリティ情報等）発信の充実

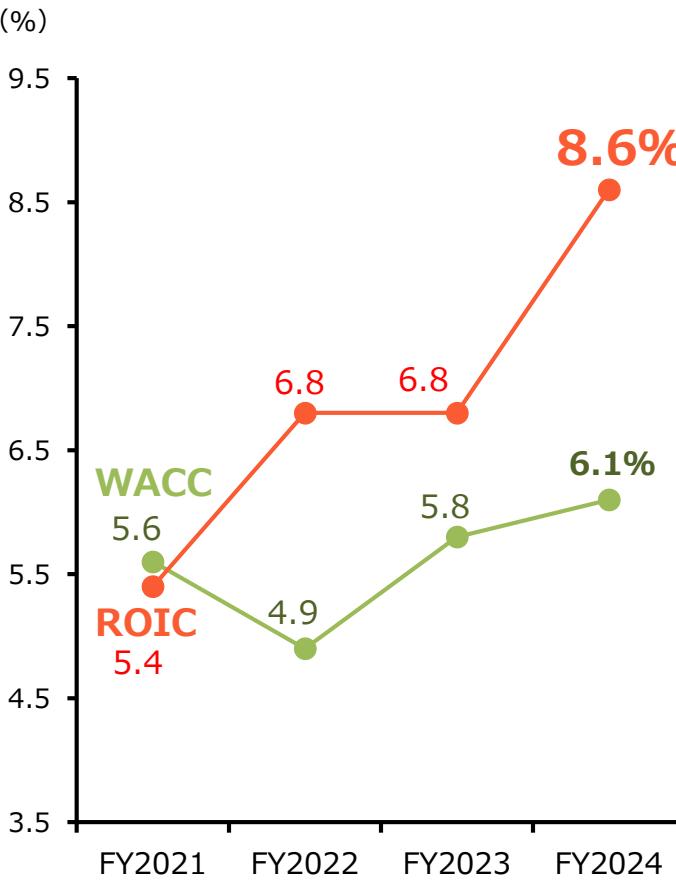
# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応② (資本収益性等)

2024年度の実績

## <資本収益性・資本コスト>

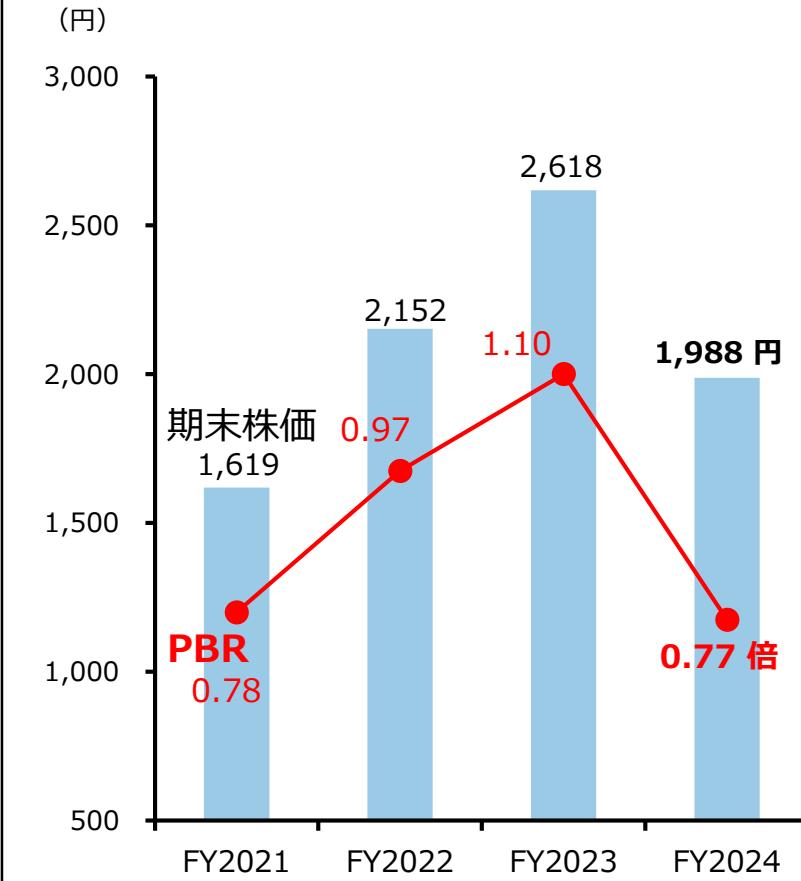


## ■ ROIC・WACC



## <市場評価>

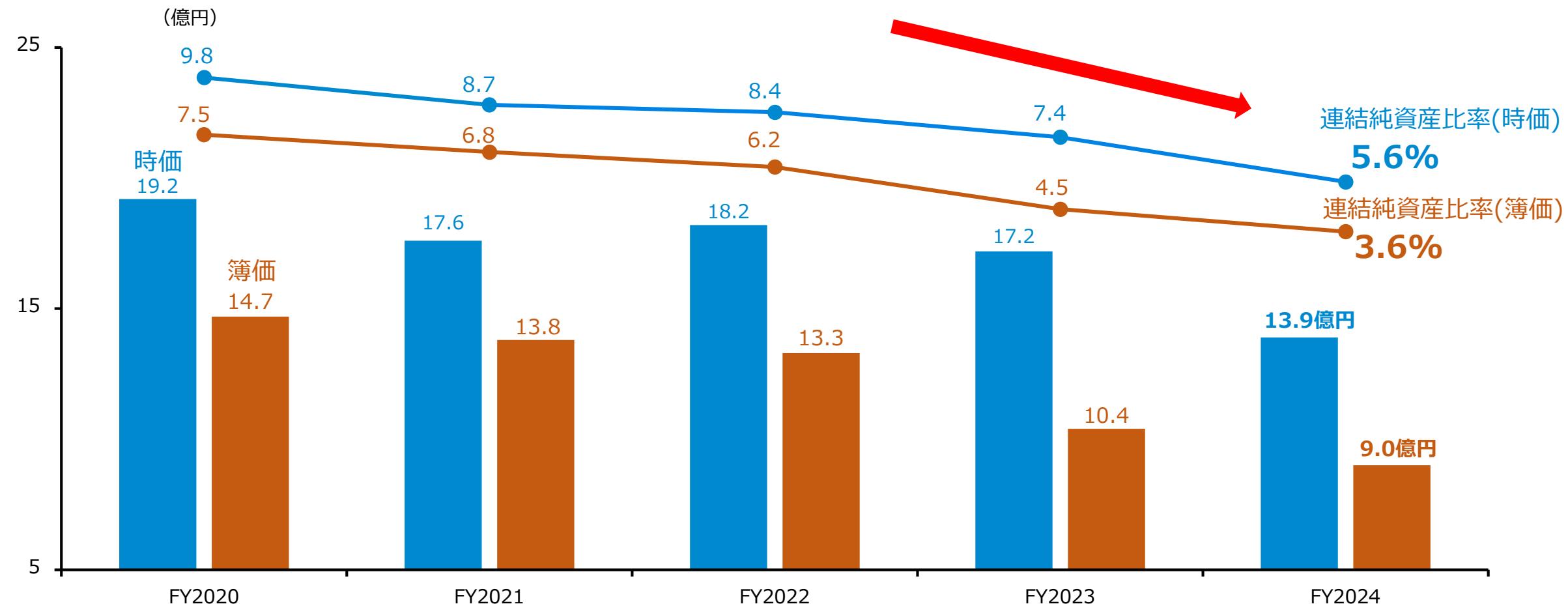
### ■ 株価・PBR



# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応③

## (政策保有株式の縮減)

中長期的な視点からその保有効果や対象企業の財務状況を定期的に検証し、保有継続の意義が乏しい銘柄については、適宜株価や市場動向を踏まえ売却を進めています。



# プライム市場の適合状況等（2025年9月末）

## 【プライム市場の上場維持基準の適合状況】

- プライム市場の上場基準の内、下記2項目（流通株式時価総額、1日平均売買代金）が2021年6月末時点未達でしたが、2025年9月末時点において基準をクリアしています。

項目	プライム市場基準	当社の実績		適合状況 (2025年9月末)
		2025年3月末時点	2025年9月末時点	
流通株式時価総額	100億円	137.9億円	<b>161.5億円</b>	○
1日平均売買代金(※)	20百万円	46.6百万円	<b>56.4百万円</b>	○

※「1日平均売買代金」

2025年3月末：2024年1月～12月の平均売買代金

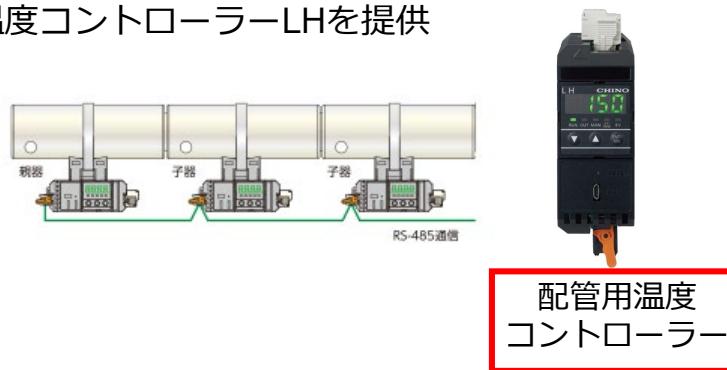
2025年9月末：2025年1月～9月の平均売買代金

半導体製造プロセスを温度計測で支援

## 半導体製造プロセスの温度管理

*Solution*

- ◆ 半導体前工程の重要プロセスである成膜工程(CVD, ALD等)において配管の“詰まり”を防止するため、配管温度を適温に制御する配管用温度コントローラーLHを提供

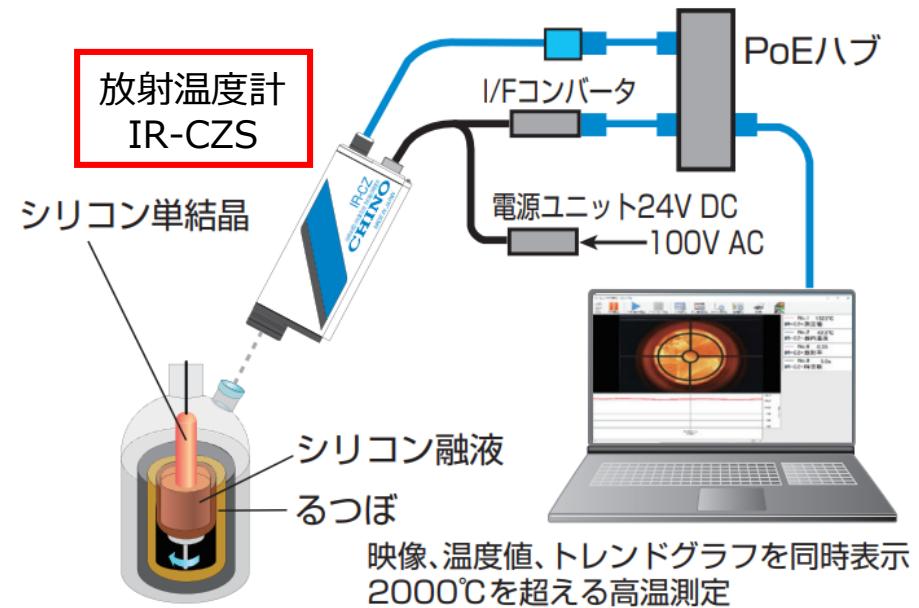


- ◆ 成膜後に不要な酸化膜を取り除くエッチャリング工程。エッチャリングする“深さ”を管理するため濃度を正確に計測する成分計を提供



- ◆ シリコン単結晶引上げ時の温度計測

IR-CZ デジタルルビデオスコープ付オプション(2024年9月発売)



※パワー半導体SIC結晶成長炉（昇華炉）でも放射温度計を上記同様のスキームで使用。

: 当社製品

# 航空機・自動車関連（金属熱処理の温度管理）

航空宇宙産業等の特殊熱処理(溶接、熱処理など)のデジタル化を支援

## ➤ 热処理の高精度化支援

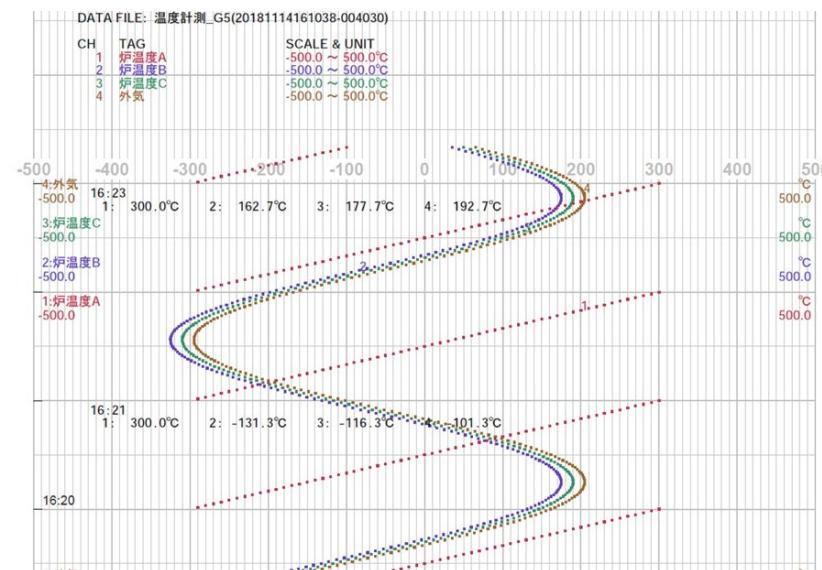
- AMS2750 :  
航空宇宙産業における特殊工程（溶接・熱処理など）に対し運営基準を定めた規格
- IATF16949 :  
自動車部品メーカーに対する認証制度でCQI-9という熱処理工程評価の規格
- 両規格ともに下記のルールが定められている。  
①校正精度、②デジタル記録、  
③読み取り専用

当社は、サプライヤーが規格に対応する支援機能を搭載したグラフィックレコーダーを提供

### ◆ 記録計（AMS2750/IATF16949支援機能付き）



記録計



AMS2750のルールに従い、  
10分間隔のデジタル印字機能を備えたグラフィックレコーダー  
「改ざん防止」「電子署名」「アクセス制限」の機能が  
求められ、これに対応

### <参考動画>

<https://youtu.be/lyVv5i7csVA?si=ggIgroX5LbNp9tbV>



# 水素関連① (燃料電池評価の支援)

温室効果ガスを出さずに発電する燃料電池の評価を支援

» 水素を「使う」システムの評価装置を提供しています。

*Solution*

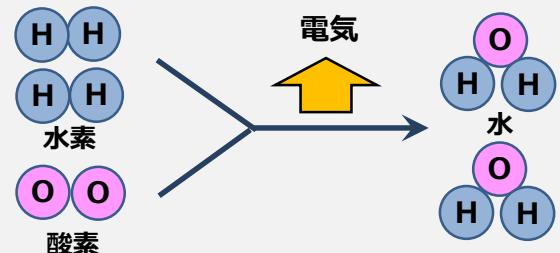
- 燃料電池自動車等が効率よく電気を起こしているかを評価する装置
- 1995年から顧客の研究開発用に販売し、**30年近いノウハウの蓄積がある**  
**(業界標準の地位を確保)**



## ◆ 燃料電池評価試験装置



## 水素を「使う」：燃料電池



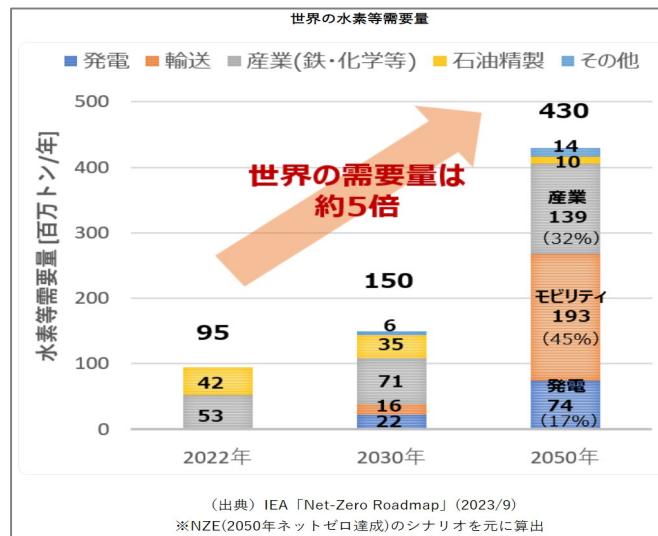
## 水素関連②（水素生成の支援）

燃料電池評価試験装置で培った技術を応用し水素生成を支援

### ➤ 水素を「作る」システムの評価装置を提供

*Solution*

- 水を水素と酸素に電気分解して、効率よく水素を取り出せるかを評価する装置

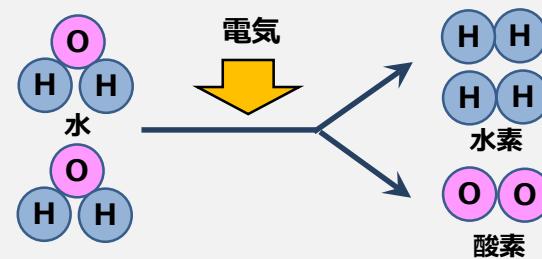


出所：資源エネルギー庁

#### ◆水電解評価装置



#### 水素を「作る」：水の電気分解



<参考動画>



# 医薬品関連（物流のリアルタイム温度監視）

医薬品の適性流通に向けたソリューション

## 医療・医薬環境の安全性向上

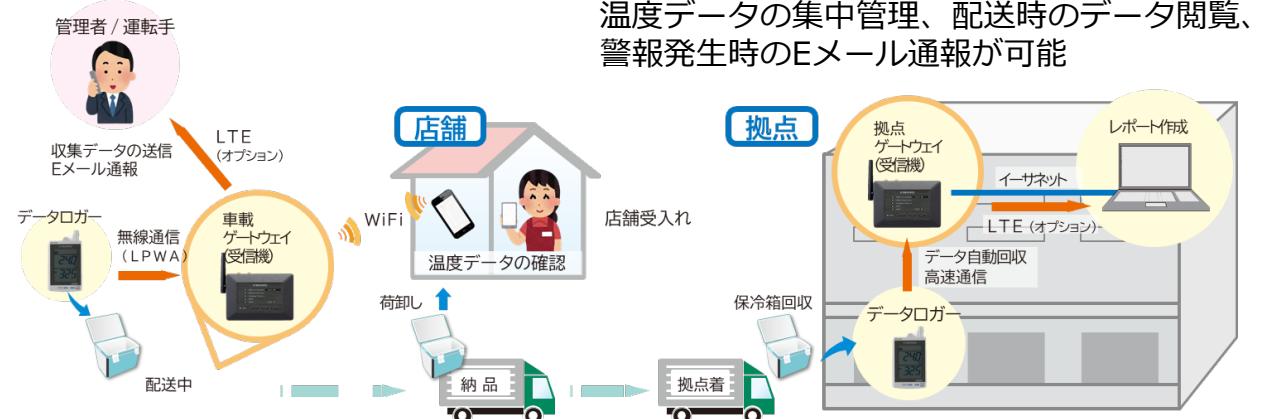
*Solution*

- 医薬品や食品などの輸送温度に対応
- LoRa®方式を利用した無線通信で、より広域な通信エリアを実現でき、金属に囲まれた冷蔵車や保冷箱内に設置しても無線通信が可能
- 最短10秒周期の無線通信が可能で、最大60台のロガーと同時接続可能。  
通信に失敗した計測データは、次回通信時に新しいデータと一緒に再送信しデータを欠損防止  
※最大7台接続…10秒周期の無線通信  
60台接続…最短1分周期の無線通信

### ◆リアルタイム無線ロガー



### ◆医薬品の適性流通～保冷BOXの中にデータロガー～



# 食品関連（穀物サイロ内の温度管理）

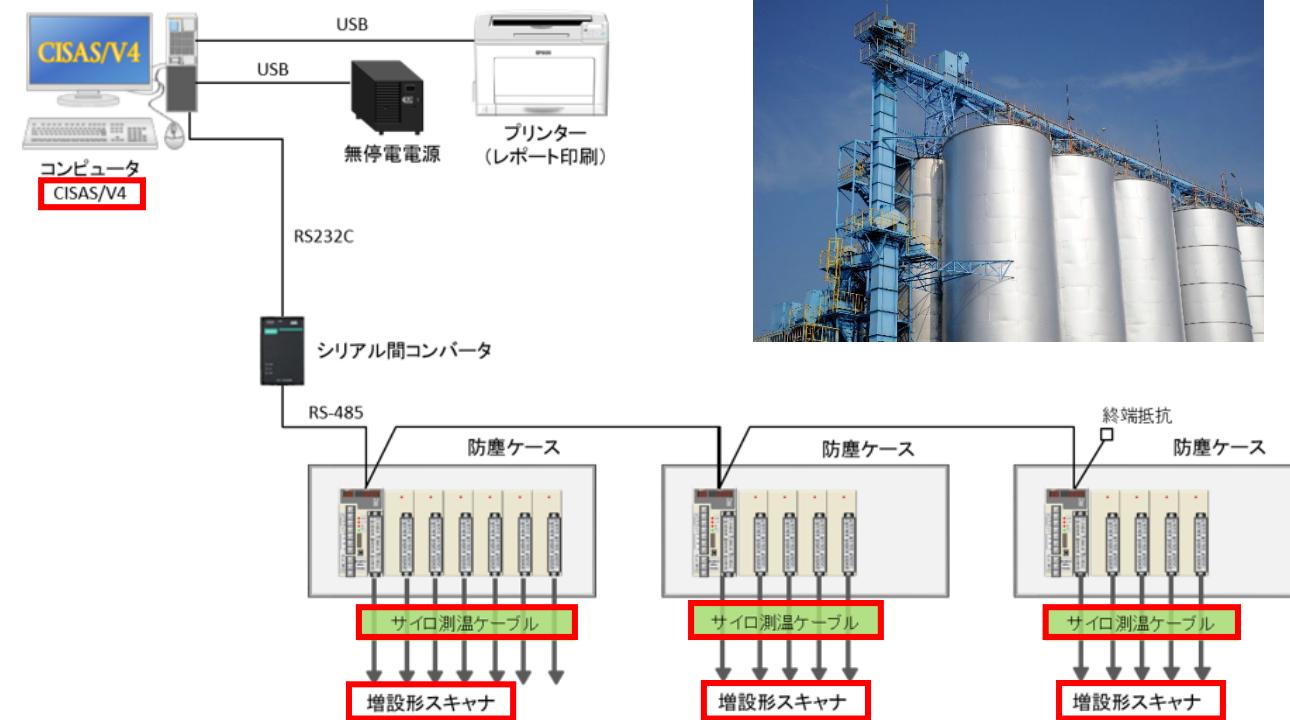
穀物サイロ内の温度変化を監視して、品質劣化や害虫発生のリスクを低減

*Solution*

## » 穀物サイロ内温度のリアルタイム監視

- 穀物は保管中に温度や湿度の影響を受けやすく、適切な管理を怠った場合のリスク
  - ・品質の低下
  - ・害虫の発生
  - ・穀物の発熱によるカビの発生
- そのため、定期的に温度監視を行うことが重要
- 穀温管理システムを活用し、温度異常を事前に検知することでリスクを回避

### ◆ 穀温管理システム



 : 当社製品

# 環境関連（エアコンの自然冷媒移行支援）

環境負荷(地球温暖化への影響)が少ない自然冷媒への移行対応

## 自然冷媒コンプレッサ性能試験装置

*Solution*

- 地球温暖化により、猛暑日が増えており、エアコンは人間が生きていく上で、欠かせないインフラですが、エネルギー需給を逼迫させる原因もあり、高効率で省エネなエアコンの開発が必要
- エアコンの冷媒(室内の“暑さ”を外に運ぶ役割をする物質)には性能の良いフロンが使用されてきたが、オゾン層を破壊する物質であるため使用が制限
- 近年では、自然界に存在する二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)、炭化水素(HC)等自然冷媒への対応が求められており、当社ではコンプレッサ性能試験装置において顧客要望に対応
- 欧州ではフッ素化ガス(Fガス)規制があり、温室効果ガス排出量の削減を促進

### ◆ コンプレッサ性能試験装置



＜冷媒（※）の方向性＞

※熱を移動させるために用いられる物質

特定フロン

転換

自然冷媒  
(二酸化炭素等)

オゾン層破壊効果：有  
温室効果  
：大

オゾン層破壊効果：無  
温室効果  
：小

# 高温高精度の放射温度計「IR-CZV」を発売

新製品情報

2025年7月に高精度（測定値の $\pm 0.3\%$ ±2°C）の測定を実現した放射温度計「IR-CZV」を発売しました。

周囲温度変化による指示変動が少なく熱処理プロセスでの品質が向上します。

## 特長

- ・高精度（測定値の $\pm 0.3\%$ ±2°C）の放射温度計
- ・測定値の安定性（周囲温度変化に対する指示変動の低減）

## 導入例

- ・品質要求が高まっている「熱処理プロセス（※）」においてご活用いただけます。  
※半導体分野（結晶成長装置）や材料分野（真空焼成装置）



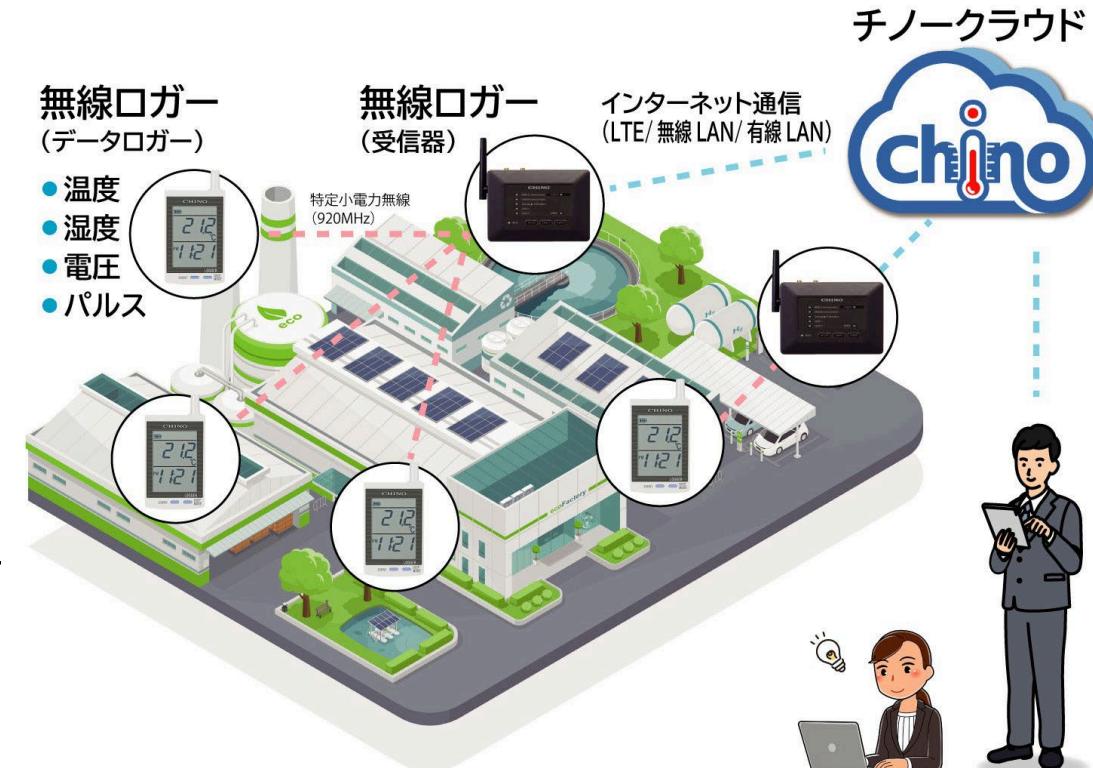
医薬・食品・各種工場等において遠隔地におけるモニタリング需要（温度・湿度）が広がっていることから、2025年6月に「リアルタイム無線ロガー（当社専用クラウド対応）」を発売しました。

## 特長

- 複数箇所の温度や湿度などのデータをクラウドで一括管理
- 広域・遠隔監視ニーズに対応
- いつでもオフィスや外出先でデータ・アラート確認

## 導入例

- 医薬品物流監視（倉庫や移動体の温湿度等の遠隔監視）や各種モニタリング等においてご活用いただけます。



# 注意事項

本資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、当社およびグループ各社が現時点で入手可能な情報に基づいており、この中には潜在的なリスクや不確定要素も含まれています。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向等により、本資料における業績見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

---

**CHINO**